



小・中・高一貫制にもとづく教科・教科外のカリキュラム開発研究：国語科 中間研究報告書

著者	桑原 隆
ページ	1-70
発行年	2005-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/00146670

小・中・高一貫制にもとづく教科・教科外の カリキュラム開発研究

— 国語科 中間研究報告書 —

課題研究番号 15330184

平成15～17年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)

平成17年 3 月

研究代表者 桑 原 隆

(筑波大学教育学系教授)

はじめに

— 国語科における語彙教育 —

研究代表者 桑原隆（教育学系）

本研究は、文部科学省科学研究費補助金による、「小・中・高一貫制にもとづく教科・教科外のカリキュラム開発」研究の一環である。平成15～17年度にわたる継続研究で、16年度において行った国語科における研究の報告である。国語科では二年目の研究として、語彙教育の研究に焦点を絞った。研究代表者の桑原隆、研究分担者の塚田泰彦教授・甲斐雄一郎助教授と、附属小学校・中学校・高等学校の国語科教員の協力を得て行った研究である。

昨年（平成16年）の12月、OECDが行った学力調査（PISA）の報告を、新聞各紙は大きな見出しで「読解力の低下」と報じた。もとより学力低下論が喧しい流れに、この結果はさらに学力低下論に拍車をかけた感がある。漏れ聞くところによれば、すでに学習指導要領の改訂も始まったともいう。OECDの学力調査の結果に真摯に耳をかたむけ、その対応策も検討する必要があるが、私の危惧は新聞各紙等が「読解力の低下」と報じていることである。新聞が与える影響には大きなものがあり、この報道では、即座に「読解指導」の復古的充実になりかねない。ところが、これまでわが国が行ってきた読解指導がめざす読解力と、OECDが求めている読みの学力とは、かなり違ったものなのである。OECDの原語（英語）は、リーディング・リテラシー（Reading Literacy）である。的確な訳語は見当たらないが、この場合のリーディングは「読解」という訳語では、その意味範囲を包み込むことはできない。読みの活用力にかなりの重点が置かれており、敢えて造語すれば、「読活力」とでもいうべきである。作品や文章内の正解を選択肢から選ぶという出題もあるが、むしろOECDのリーディング・リテラシーでは、主体的に意味を読み取り、自分の考えを出題文に関係づけて論証するという力を求めている。例えば、第一回目の調査（2000年）では、「落書き」に関する肯定的意見と否定的意見の問題文が出され、設問は4問よりなっている。問1は選択肢から正解を求めるものであるが、問2・問3・問4はいずれも、記述式である。そして、この記述式において、他国より群を抜いて無答率が高くなっているのである。この現象は、わが国の国民性を表しているようにもみえる。因みに、アメリカは、無答率は日本に比べると著しく低いが、誤答率が高くなっている。詳しく分析する紙幅がないが、いずれにしても、「読解」という概念では包み込むことはできない。

たんなる読解力ではなく、リーディング・リテラシーの力を育成していくためのカリキュラム開発もこれから大きな課題となってくるであろう。言語表現力も、コミュニケーション能力も時代に即応して対応していかなければならない。これらの言語能力の根幹をなしているのが豊かな語彙力である。豊かな語彙力は、人間形成の基盤である。カタカナ表記の語彙はますます増えていくと予想されるが、一方、わが国の伝統文化に根ざした語彙、これを文化語と仮に名付けておくと、漢語や諺・慣用句などの文化語の語彙力は衰退しているのではないかと思われる。一昔前までは、家族社会や地域社会において、祖父母などの年長者から、知らない間に文化語を聞くともなく覚えてきた。今や世代間の交流は希薄になり、逆に外来語やコンピューター言語などのカタカナ表記の語彙は、年長者が年少者から教えてもらわなければならなくなっている。

社会の構造的変化にともなって、言語社会も変質してくるのは歴史的必然でもあろう。そこで、語彙力の現況を明らかにしながら語彙教育のカリキュラム開発の基礎研究として、現代の小学生、中学生、高校生の語彙力の実態調査を、筑波大学の附属学校の児童・生徒を対象に実施することにした。検査問題は、研究協力者として附属小学校・中学校・高等学校の国語科教員が作成した。指導する語彙そのものを学年別に配列することはもとより困難ではあるが、今回の実態調査から各学校段階での語彙教育の在り方や語彙教育の方法や問題点への示唆が得られるであろう。

目 次

はじめに	桑原 隆	1
I 国語語彙力調査の概要		
	筑波大学附属小・中・高 国語科	3
II 国語語彙力調査の結果と考察		
	筑波大学附属小・中・高 国語科	4
小学校		4
中学校		17
高等学校		30
資料 国語語彙力検査問題		45
小学校		
中学校		
高等学校		

I 国語語彙力調査の概要

筑波大学附属小・中・高 国語科

1 調査語彙の選定について

以下に示した「調査」および「研究」を参考にして基本語彙・生活語彙を吟味、抽出し、これに筑波大学附属小・中・高各学校で日ごろ教科指導の中で国語力の基本と位置付けられる語彙を加え、この中から調査語彙を選定した。

- ・『日本語基本語彙—文献解題と研究— 国立国語研究所報告116』(明治書院 平成13年4月刊)
- ・『教育基本語彙の基本的研究 国立国語研究所報告117』(明治書院 平成13年6月刊)
- ・『平成11年度 国語に関する世論調査—言葉遣い・国際化時代の日本語—』(文化庁文化教育部国語課 平成12年5月刊)
- ・『平成12年度 国語に関する世論調査—家庭や職場での言葉遣い—』(文化庁文化教育部国語課 平成12年6月刊)
- ・『平成13年度 国語に関する世論調査—日本人の言語能力を考える—』(文化庁文化教育部国語課 平成14年6月刊)
- ・『平成14年度 国語に関する世論調査—日本人の国語力—』(文化庁文化教育部国語課 平成15年6月刊)

2 語彙選定の基準について

以下の4分野より、それぞれ30語を選定した。

漢語

和語

四字熟語・慣用句

外来語

3 調査の観点について

以下のア～オの観点で調査した。

ア 正しく読めること。

イ 意味を正しく理解していること。

ウ 正しい使われ方かどうか判断できること。

エ 適切な語彙を選択できること。

オ 語彙を用いて適切な表現ができること。

4 検査数について

A 「漢語」「和語」「四字熟語・慣用句」「外来語」の4分野について、上記の「3 調査の観点」から以下のように作成した。

イについて 問題数 8語

ウについて 問題数 8語

エについて 問題数 8語

オについて 問題数 6語

B 漢語については、イ～オの問題数のほか、観点アの「正しく読めるかどうか。」について、問題数30語を設定した。

II 国語語彙力調査の結果と考察

〔小学校〕

A 80% 以上 B 60～80% 未満 C 40% ～60% 未満 D 40% 未満

設問 1の1 (漢字の読み)

正当率	4 年 語					6 年 彙				
	A	正面 不満 脈 紀行文 深刻	説明 環境 子孫 恩人 愛用	想像 無意識 特産品 習慣	暗号 最年少 冷静 弁明	対談	正面 対談 最年少 持参 恩人 早熟	説明 遠慮 脈 冷静 習慣 深刻	家畜 不満 害毒 紀行文 仮定 密接	想像 環境 子孫 愛用 弁明
B	深刻 複写	家畜 密接	遠慮	害毒	持参	往路				
C	往路	散策	早熟			湯治				
D	湯治	仮定								

4年生で100パーセントの正答率を示した漢字は、「説明」「暗号」「冷静」「恩人」「愛用」の五つであった。6年生になると、その数は上記の五つに15の語句を加え20にも及び、漢字を読む力の上昇が見て取れる。4年生の段階でB群にあった語句はすべてA群に移行した。4年生でC群にあった「散策」と「早熟」もA群に上昇したが、「早熟」などは6年生でも読み間違いがあり、「はやじゅく」「そうしゅう」などの解答があった。「往路」は、6年生でもB群にとどまり、読み間違いとしては「じゅろ」「おうじ」「じゅうろ」などがあり、語彙としての定着は今一步の感がある。また、4年生でD群にあった「湯治」は、6年生ではC群にしか上昇せず、児童の生活にはなじみのうすい語句であることがはっきりした。誤りの例としては「ゆち」と「ゆじ」が多く、その他「とうち」「たいじ」などの解答があった。

その他、6年生でも「遠慮」を「えんきょ」、「密接」を「みっちゃく」、「脈」を「はで」「害毒」を「かんどく」などという誤答もあった。

設問 1の2 (和語の意味の理解)

正当率	語			彙		
	4 年			6 年		
A	むく しげる	なぐさめる かる	にくらしい たずねる	むく にくらしい かる	なぐさめる まごつく たずねる	ひやかす しげる
B	ひやかす	まごつく				
C						
D						

和語の意味をとらえ、文の中で正しく使うことができるかどうかを見る問題である。選択式の穴埋めの設問であるとうこともあり、全体的に正答率が高い。6年生では、すべての語句が正答率80パーセントをこえている。⑥の「しげる」、⑧の「たずねる」は、4年生6年生ともに正答率100パーセントであった。その他④の「にくらしい」、⑦の「かる」は、4年生で90パーセントをこえ、6年生は100パーセントになっている。4年生での正答率がB群に入っている「ひやかす」「まごつく」は、6年生ではA群に入っているが、正答率は、他の語句と比べるとやはりやや落ちる。とくに「まごつく」は、6年生の中では最低の正答率で、85パーセントである。「ひきつぐ」の誤答には「ひきつぐ」が多かった。問題文の意味をとらえ、予想もしていなかった質問に答えるために、バトタッチしたというようなとらえ方をしていると考えられる。①の「むく」は、「適している」の意味の他に「皮をむく」という意味があるが、こちらの意味を思いうかべた子どもは、「のびる」などの他の語句を選択したようだ。

設問 1の3 (和語の使われ方の理解)

正当率	語				彙		
	4 年				6 年		
A	ねだる なえる	うんざりする	まいる	述べる うんざりする ほこり	ねだる まいる 頂	なだめる かなえる	
B	述べる	なだめる	ほこり	頂			
C							
D							

和語の意味をとらえ、文の中で正しく使えるかを見る問題である。その語句が正しく使われている文を選ぶ。①の「述べる」の正答率が、4年生では69パーセントと最も低かった。誤答としては、エの「救いの手をのべる」を選んでいる児童が多かった。「述べる」に「伸ばす」という意味があるとは考えていないが、「のべる」という音に惑わされて、同音異義語であるエを選択したのではないかと考えられる。6年生では、すべての語句がA群に入っているが、やはり①の「述べる」をエとした誤答が見られた。また、最も正答率が低かったのは③の「なだめる」である。4年生でもB群に入っており、正答率は74パーセントであった。6年生になると正答率は85パーセントに上がったが、それでも他の語句と比べると、正答率は低めである。「なぐさめる」は、子どもの中でもよく聞く語句であるが、「なだめる」は、子どもの中ではあまり登場しない語句なのかもしれない。また、⑧の「頂」も、正答率はあまりよくない。これには二つの理由が考えられる。一つは、「頂」の意味を的確に捉えていないもの、もう一つは、問題文の紛らわしさにひっかかったものである。「山の頂」と「ふもと」という語句のセットに惑わされた児童がいるのではないかと考えられる。

設問 1の4 (和語の選択)

正当率	語 彙					
	4 年			6 年		
A	えがく やっかい	おだてる あせる	うっとうしい	ほる うっとうしい とうげ	えがく やっかい	おだてる あせる
B	ほる			なさけ		
C						
D	なさけ とうげ					

和語の意味を正しくとらえる問題である。意味にふさわしい語句を選ぶ。4年生では、正答率の差が大きかった。⑦の「なさけ」、⑧の「とうげ」は、正答率30パーセント台である。どちらの語句も、普段から耳にするものではあるが、いざその意味はとなると、正しく選ぶことのできない児童が多いということであろう。⑦の「なさけ」についての誤答は、「おおやけ」という選択肢がたいへん多かった。これは4年生6年生ともに同じ結果を示した。「なさけ」は、6年になってもB群に入っており、意外にも意味が的確に捉えられていないことが分かった。⑧では、正解「とうげ」に対して、「どうき」「どうもう」という誤答が多かった。誤答の傾向も4年生と6年生で同じであった。6年生での「とうげ」の正答率は85パーセントであった。また、①の「ほる」の正答率もよくなかった。4年生で69パーセント、6年生でも80パーセントで、かろうじてA群に含まれているといった状況である。この「ほる」は、「土を取り除く動作」を表す語句として選択されるわけだが、「かきわける」という語句を選択した児童が多かった。その他の語句については、いずれも100パーセントか、それに近い正答率を示した。

設問 1の5 (和語を使った表現)

正当率	語			彙		
	4 年			6 年		
A	おいしい しおれる	うっとり ひな	あこがれ	おいしい あこがれ	うっとり しおれる	見込み ひな
B	見込み					
C						
D						

正答率で見ると、6年生はすべてA(80%以上)である。4年生は、「見込み」以外はA、「見込み」は66.67%の正答率でB(60%~80%)あった。4年生のこの語句の誤答としては、次の三つの型が見られた。

①解答が書かれていない(空欄)のもの。これは「見込み」という言葉の意味が思いつかなかったと考えられる。理由としては、1-5の6問中でこの「見込み」だけが空欄であったのが39人中7人あった。率で示すと約18%になる。他の問題の書き込みから見ても、空欄とした児童の多くは分からないので書けなかったととらえてよいと考える。

②「見込み」の語句を使っていないもの。これの例としては、「(来週は)公園に遊びに行く予定だ。」「(来週は)こういうものが入っている。」といった解答である。「見込み」の意味はある程度とらえられているとも考えられる。これらの解答をしている児童の、他の解答を見ると、一つ、二つ同様の間違いをしている児童も見られるが、多くは「見込み」だけである。

③「見込み」の意味を間違えてとらえているもの。この例としては、「(来週は)新聞の見込みはおもしろい。」というものである。たぶん、「折り込み」と勘違いしているものと思われる。

設問 1の6 (外来語の意味の理解)

正当率	語			彙		
	4 年			6 年		
A	ライバル アクセサリー	カタログ エール	フェアプレー インスタント	ライバル ファイル	カタログ エール	アクセサリー インスタント
B	ファイル					
C	レール			フェアプレー レール		
D						

外来語の意味を正しくとらえ、文の中での的確に使うことができるかを問う、穴埋め式の問題である。外来語は、知っているか知らないかの差が大きく、穴埋めの問題文を読んで、前後の文脈から正解を予測することは難しい。そのために、正答率も二極化した。4年生6年生とも、A群に入っている語句の正答率はいずれも高く100パーセントに近い数字となっている。反対に⑥の「レール」は、4年生で53パーセント、6年生で58パーセントの正答率であった。「レール」には、「鉄道の線路」という意味の他に、問題にされているような「筋書き」という意味をもつ。複数の意味をもつ語句を、正しく穴埋めするのは6年生といえども難しいようである。また、選択肢に「ルール」があり、これを選択する6年生が多かった。意外だったのは、6年生の「フェアプレー」の正答率が低かったことである。4年生で82パーセントを示した正答率が、6年生は58パーセントである。③の「フェアプレー」や⑦の「エール」などの語句は、健全なスポーツ精神として使われる機会もあるかと思われるが、6年生では、「グッドプレー」「ファインプレー」などの語句を選んでいく児童が多かった。1-6の中で、4年から6年にかけて正答率が下がった唯一の問題である。

設問 1の7（外来語の使われ方の理解）

正当率	語彙					
	4年			6年		
A	ハイキング	トラブル	メンバー	ハイキング	トラブル	メンバー
	メッセージ	ランキング	サンプル	メッセージ	プラットフォーム	
	キーワード			ランキング	サンプル	キーワード
B	プラットフォーム					
C						
D						

外来語を文の中で正しく使うことができるかを見る問題である。取り上げられた外来語は、4年生の児童にとっても身近なものだったのか、全体的に正解率が高い。4年生のA群に入っている語句は、すべて90パーセントをこえている。「プラットフォーム」は、79パーセントだった。この語句だけは、児童の生活の中で遠近がかわってくるもののようなのだ。電車で通学する児童にとっては、なじみのある語句であろうし、徒歩やバスによる通学の児童にとっては、なかなか聞くことのない語句であるということが出来るかもしれない。他には、4年生で学習する物語にこの語句が登場するが、その学習の前と後では、認識に差が出てこよう。この物語は、今のところすべての教科書に掲載されている。一方の6年は、すべての語句の正答率がA群に入った。しかも、「プラットフォーム」以外は、すべて100パーセントという正解率である。児童の生活の中に、これらの語句が浸透していることがよくわかる。

設問 1の8 (外来語の選択)

正当率	語		彙	
	4年		6年	
A	コミュニケーション サービス ランニング	プラネタリウム ステンドグラス チャンス	コミュニケーション サービス ランニング コンプレックス	プラネタリウム ステンドグラス チャンス カリスマ
B	コンプレックス	カリスマ		
C				
D				

1-8

外来語の意味を正しく把握しているかを見る問題である。4年生から6年生への語彙の習得の様子が顕著に見られる。

4年生のA群にあるそれぞれの語句の正解率は、6年生になってすべて上昇している。この設問にある語句は、多くが児童の生活に近いものだったようである。4年生で80パーセントをこえる語句は、6年生になって100パーセントに近くなっている。4年生でB群だった「コンプレックス」、「カリスマ」の二語は、6年生になってA群に入り、それぞれ95パーセント、88パーセントとなっている。2年間という過程の中で、新たな語彙として修得したことが分かる。「カリスマ」は6年生でも88パーセントの正解率で、誤答としては、「キング」が多かった。「強く引きつける力」という語積から連想したのかもしれない。その次にはガリバーという誤答も見られた。

設問 1の9 (外来語を使った表現)

正当率	語		彙	
	4年		6年	
A	リュックサック プログラム	レポート ファッション	リュックサック プログラム スピーチ	レポート ファッション
B	スピーチ		エチケット	
C				
D	エチケット			

4年生と6年生を比べると、正答率の違いはあるものの、いずれも「エチケット」が低い。4年生でいうと、もう一つ「スピーチ」があげられる。

4年生では「エチケット」の正答率が、本調査の全語句の中で、最も低い語句の一つといえる。4年生の28%が解答を書くことができない状態であった。また、誤答例として多いものは「エチケット袋」という言葉を利用した記述である。これは「エチケット」そのものの意味を示していないととらえ誤答とした。（「エチケット袋」としては適切な利用。）調査後、真っ先に尋ねられたのが「エチケットってなに？」ということであった。この点からも、児童の語彙の中に「エチケット」が位置付く率は低いものと思われる。6年生は、この1-9については「エチケット」以外はすべて100%の正答率である。

4年生の「スピーチ」は、AとBの境目のBといえる。「スピーチ」の誤答の内容としては、記述なしがほとんどである。最後の問題なので時間的なことも考えられないこともない。書かれているものの誤答としては、「（クラスみんなに）はなしをすることです。」というものである。この児童は「ファッション」で「（彼女は）服をコーディネートする」「エチケット」で「一ちゃんとルールをまもってください。」と解答している。他は適切な解答である。解答の初めに位置付けている言葉（「クラスみんなに」等）にも左右されている可能性も否定できない。

設問 2の1（漢語の意味の理解）

正当率	語 彙			
	4 年		6 年	
A	無意識	遠慮	無意識 遠慮	紀行文 仮定 往路 密接
B	紀行文	往路	密接	害毒 複写
C	害毒	複写	仮定	
D				

文の中で漢語を正しく使えるかどうかをみる問題である。

4年生のA群には「無意識」と「遠慮」が入っているが、1-1で読みの問題としての正答率を見ると、「遠慮」は71パーセントしか読めていないにもかかわらず、穴埋めの問題では高い正答率を示している。「無意識」は読みの問題では94パーセントの正答率を示した。2-1の問題には、フリガナがついているために、自力では読めない漢字でも、読み方が示されると、使われている漢字から意味をとらえ、文の中に正しく当てはまる語句を選択することができるのだということが分かる。

同じように、6年生のA群にある「往路」は、読む問題ではB群で、様々な誤答も見られたが、フリガナがついたこの問題では90パーセントを示した。読み方が分かると、意味が予測できることや、穴埋めするための前後の語句を手がかりに、正解を導きことができることが分かる。

反対に、読む問題では高い正答率を示したのに、適語を補充する問題では正答率が低かった問題もあった。6年生の「害毒」は読む問題では95パーセントの正答率だったが、補充問題では「有害」を選択する誤答が多かった。「複写」も98パーセントの読みの正答率にもかかわらず、補充問題では「応用」を選択しての誤答が見られた。

設問 2の2 (漢語の使われ方の理解)

正当率	語				彙			
	4年				6年			
A	冷静	几帳面	愛用	深刻	想像 散策	冷静 深刻	几帳面	愛用
B	想像				早熟	弁明		
C	弁明							
D	散策	早熟						

漢語を正しく文の中で使用できるかを見る問題である。この問題では、4年生と6年生の学年の発達が顕著に見られる。漢語の正しい使用について、4年生ではまだ十分に定着していない語句も多く、正答率は四つの段階それぞれに分散した。それが6年生になると、A群とB群のみの分布となる。4年生のB群の「想像」は、6年生では92パーセントの正答率に上がり、D群だった「散策」は、90パーセントの正答率でA群に入ってきた。

C群の「弁明」は、B群となり、46パーセントの正答率から62パーセントの正答率へと上昇した。4年生のD群の「早熟」は、6年生ではB群となり、正答率も35パーセントから73パーセントへと上がっている。それでも、七割の児童しか正答しなかったことを考えると、「弁明」「早熟」は、小学生の語彙としてはやや難しいものであるととらえることができる。

また、読む問題との関連で見ると、次ようなことが言える。4年生で正答率が低かった「散策」と「早熟」は、1-1の読む問題でもそれぞれ56パーセント、43パーセントという結果であった。ここでは、やはり読めない漢語は使えないという相関関係を見ることができる。

設問 2の3 (漢語の選択)

正当率	語					彙				
	4年					6年				
A	脈	恩人				家畜 子孫	習慣	対談	脈	恩人
B	家畜	習慣	対談	記号	子孫	環境	記号			
C	環境									
D										

設問 2の5 (ことわざ・慣用句の意味の理解)

正当率	語		彙	
	4年		6年	
A	石の上にも三年 歯が立たない	口がすべる	石の上にも三年 口がすべる 歯が立たない	手をやく
B	馬の耳に念仏 急がば回れ	帯に短したすきに長し 手をやく	帯に短したすきに長し 鼻にかける	急がば回れ
C	鼻にかける			
D				

ことわざ・慣用句の意味をとらえ、文の中で正しく使えるかどうかを見る問題である。

4年生でA群に入った三つの語句は、6年生でも同じように入り、高い正答率を示した。4年生でB群となった四つの語句のうち、「馬の耳に念仏」は、正答率が20パーセント上昇し、A群となった。同じように「手をやく」も、正答率が15パーセント上昇し、A群に入った。その他の語句は、B群のままであったが、それぞれの正答率は上昇している。「帯に短したすきに長し」は、「終わりよければすべてよし」を選んだ児童が見られた。「急がば回れ」は、単独での意味は分かるのだが、文の中に穴埋めで入れようとしたときには、「結果をあせらずコツコツ努力・・・」という言葉に左右されたのか、「石橋をたたいてわたる」を選択した児童がいた。4年生でC群だった「鼻にかける」は、6年生になってB群に上がり、正答率は56パーセントから75パーセントに上昇した。誤答としては「鼻につく」を選んだものが多く、「鼻であしらう」を選択したものも見られた。この語句は、小学生の子どもにはやや遠いものと考えられる。

設問 2の6 (ことわざ・慣用句の使われ方の理解)

正当率	語			彙		
	4年			6年		
A	一石二鳥 耳が痛い	腹が立つ	眉をひそめる	一石二鳥 鼻を折ってやる 眉をひそめる	肩をもつ 腹が立つ 耳が痛い	油を売る
B	顔にどろをぬる	肩をもつ		顔にどろをぬる		
C	油を売る	鼻を折ってやる				
D						

6年生では「顔にどろをぬる」だけがBランクであるが、4年生では、「肩をもつ」もBランクに位置付いている。さらに、「油を売る」「鼻を折ってやる」がCランクになっている。

「顔にどろをぬる」の誤答として多いものは、「あまりのくやしさに友達顔にどろをぬる。」というものである。「水たまりで転んで友達顔にどろをぬる。」と「どろ」を「泥」そのものにとらえている児童は2名であった。

「肩をもつ」の誤答は「仲の悪い友達肩をもつ。」がほとんどであった。他、「重そうな荷物なので友達肩をもつ」と、解答なし（未記入）がいずれも7.8%である。

4年生ではCランクとなっている「油を売る」については、「人をじゃまして油を売る。」と答えた児童が30%あった。また、「鼻を折ってやる」の誤答は「自分のすごさに感心し、鼻をおってやる。」が誤答の半数を占めている。

これは、筆者の思いであるが、2-6の中で「一石二鳥」「腹が立つ」「耳が痛い」については、4年生でも生活の中できなり使われている。これに対して、4年生でB、Cとなっている慣用句については、日常の中では使われていないように感じる。

設問 2の7（ことわざ・慣用句の選択）

正当率	語		彙	
	4年	6年	4年	6年
A	猿も木から落ちる 立つ鳥跡をにごさず	泣きっ面に蜂 猫に小判	猿も木から落ちる 泣きっ面に蜂 猫に小判 手をうつ	どんぐりの背比べ 立つ鳥跡をにごさず 舌を巻く 目にあまる
B	どんぐりの背比べ 手をうつ	舌を巻く 目にあまる		
C				
D				

ことわざ・慣用句の意味から、それにふさわしい語句を選択する問題である。

4年生でも、「猿も木から落ちる」や「泣きっ面に蜂」などの語句は正答率が高く、十分に身につけていることがわかる。6年生になると、その割合は100パーセントに近くなる。また、4年生のA群にある「立つ鳥跡をにごさず」「猫に小判」も、6年生ではさらに正答率を上げている。

4年生でB群にあった「どんぐりの背比べ」は、6年生になると100パーセントの正答率を示し、語句の修得の上昇が顕著であった。その他、B群にあった語句は、すべてA群に移行している。

正答率のやや低い「目にあまる」は、「目をつぶる」を選択する児童が多かった。また、「猫に小判」の問題では、「一寸の虫にも五分の魂」や「一寸先は闇」などを選択するものもあり、語句の使用にあいまいなところが見られた。

設問 2の8 (ことわざ・慣用句を使った表現)

正当率	語彙	
	4年	6年
A	足が棒になる	息を殺す のどから手が出るほど 猫の手も借りたいほど 足が棒になる
B	息を殺す のどから手が出るほど 猫の手も借りたいほど	味をしめる
C		板に付く
D	味をしめる 板に付く	

この慣用句については、6年生と4年生の発達段階に応じているような結果となっている。それは、6年生でBランクとなっている「味をしめる」、Cランクとなっている「板に付く」が、4年生ではDランクになっていることである。また、6年生ではAランクであるが、4年生ではBランクであるものが、四つあることも他には見られない結果である。

4年生で「猫の手も借りたいほど」の誤答としては、一つは記述していないものである。これは、文を作ることによって答えるものとして共通している。もう一つは、「猫の手も…」の句を使わず、その意味を書いているものである。例えば、「(仕事が)いそがしい。」「(仕事が)はかどらない。だれかてつだって。」といったものである。

4年生の2-8の解答で「味をしめる」「板に付く」の二つだけが記述されていないのは25%にもなる。これ以外にも記述されなかったものがある解答を含めると48.8%にもなる。答えを書いているが誤答であるものは、やはり意味が理解されていない。例えば、「(かれの)板について歩いていこう。」という答えである。4年生におけるこの二つの正答率は23%で、今回の「語彙力調査」すべての語句の中で最も正答率の低い語句である。

全体を通して

語彙の習得については、基本的に4年生から6年生へと学年が上がるにつれて数的にも意味的にも広がり、深まっていると判断できる。各語句についての正答率の推移がそれを証明している。4年生の正答率の方が高いというような語句はほとんど見ることができない。

四つの語句の分類の中で、和語や外来語は、4年生から高い正答率を示している。漢語とことわざ・慣用句については、4年生の段階では正答が分散する傾向があり、それが6年生になると、高いレベルでの正答率に上がっていくという結果も得ることができた。それでも、語句の中には子どもの生活から離れていて、今ではあまり児童の目にふれていないものもあり、そういった語句についての正答率は低いものとなった。

一方で、普段の生活の中ではあまり目にしない語句の問題について、使われている漢字からその意味を推測したり、前後の文脈をもとにして適切な語句を選んだりしながら、意味や使い方を予測したりもしていることが分かった。漢語を正確に読むことができないのに、その語句を文の中に当てはめて使うこともできていた例もみられた。子どもの言語習得には、おそらくこのような過程をたどるもの、つまり、未知の語句に出合ったときに、その語句の意味を予想し、仮にあてはめて使ってみて、確かめるといった過程があるのだろう。

教室で授業をしていると、個々の児童の理解力、読解力のようなものが見えてくる。あえて数値化するためのテストなどをしなくとも、個々の児童がもっている言葉の力をおよそではあるがつかむことができる。授業における児童の姿を、今回の語彙調査の結果と重ね合わせると、やはり、語彙力のある児童、語彙の豊富な児童は、理解力も高いと言える。同時に、自分あるいは自分の考えを表現するための語彙をより多く持ち合わせていれば表現力も豊かになる。語彙力と、理解力、表現力とは切っても切れない相関関係があるはずである。今後、より精密な語彙力調査をしながら、同時に読解力、表現力との相関関係を、より客観的なデータとして集計し、その結果をもとに総合的に考察を加えてみたいものである。

〔中学校〕

A 80% 以上 B 60～80% 未満 C 40% ～60% 未満 D 40% 未満

設問 1の1 (漢字の読み)

正当率	語彙				
A	①威厳 (98%) ⑥安泰 (82%) ⑪敬服 (100%) ⑬呼応 (96%) ⑲静寂 (94%)	②恩恵 (87%) ⑦共存 (99%) ⑫激励 (95%) ⑰資質 (98%) ⑳超越 (92%)	③過失 (100%) ⑧規律 (98%) ⑬欠如 (81%) ⑱支障 (100%) ㉑把握 (98%)	④寛容 (96%) ⑨迎合 (84%) ⑭謙虚 (100%) ⑳承諾 (90%) ㉒明朗 (96%)	⑤救済 (90%) ⑩軽率 (90%) ⑮賢明 (98%) ㉓情緒 (99%) ㉔余暇 (87%)
B	㉕遂行 (74%)		㉖搜索 (78%)		
C	⑲執着 (55%)		㉗体裁 (57%)		
D	㉘変遷 (28%)				

設問1-1は、〈漢語の読みの問題〉である。30語それぞれの読みは、小学校時学習のみで構成されているものが9語、小・中学校時学習の組み合わせが17語、中学校時学習のみが4語となっている。

正答率は、A段階が25語、B段階とC段階がそれぞれ2語、D段階が1語であった。A段階のうち「過失」「敬服」「謙虚」「支障」は100%、残りは90%台が16語、80%台が5語、B段階では「搜索」78%、「遂行」74%、C段階では「体裁」57%、「執着」55%である。

誤答としては、「遂行」を「ついこう」「たいこう」、「体裁」を「たいさい」「たいせい」、「執着」を「しっちゃん」などが目についた。

D段階の「変遷」の正答率は28%と低く、誤答の5割が「へんかん」であった。「せん」の読みは中1社会の「(平安京)遷都」でも既習のはずだが、この数値は予想外の低さである。

なお、二通りの読みが可能である3語について正答の内訳をみると、「共存」「執着」については「きょうそん」「しゅうじゃく」(「じゃく」は高等学校で学習)は0%、「情緒」は「じょうしょ」14%であった。

設問 1の2 (和語の意味の理解)

正当率	語彙			
A	おもむき (96%) うやむや (93%)	いちず (82%) おぼろな (95%)	おろそか (95%) いてつく (93%)	あべこべ (95%)
B	かおる (73%)			
C				
D				

設問1-2は、文の中の（ ）内に、適語を入れる形式の間である。結果は、B段階が一語、残りは全てA段階であり、和語の設問の中で最も正答率が高く、81.6%であった。語彙ごとの正答率は、高い方から順に、「おろそか」100%、「いちず」98%、「おぼろな」95%、次いで「いてつく」「うやむや」93%、「あべこべ」「おもむき」が80%台、「かおる」については73%であった。以下、正答率の低い三語について考察を加えてみることにする。

「あべこべ」については「逆」という語の方を通常使っていることが、正答率を下げたかとも思われる。「おもむき」については、中学生の段階として生活場面としては使うことの少ない語であることが正答率の低さの理由にあると思われる。誤答として「たしなみ」が多かったことは、これらの語の判別がついていないという意味で、指導上、同傾向の語彙として認識しておくことも必要かと思われる。また、「かおる」は、「風（かおる）五月」という例文での出題だったが、「なびく」、次いで「くゆる」の誤答が多かった。「かおる」という語は手紙等での使用が主で、日常ではあまり使用しない語彙であることが原因かと思われるが、指導の観点としては、教科書等の教材文にでてくる語彙を、半ば偶然に教えることに加えて、手紙文の指導などに絡めて、一定の語彙指導を行っていく必要があるものと思われる。

設問 1の3（和語の使われ方の理解）

正当率	語 彙			
A	たしなめ (80%) ほのかな (84%)	かたくな (94%) いやおうなし (88%)	かろうじて (91%) くわだて (87%)	ひたすらに (95%)
B				
C	あまりある (59%)			
D				

設問1-3は、当該の語彙について、正しい使用がされているものを尋ねる形式の間である。結果はC段階が一語、残りは全てA段階であり、和語の設問の中では二番目に正答率が高く、77.4%であった。

語彙ごとの正答率は、「ひたすらに」「かたくな」「かろうじて」が90%台、「いやおうなし」「くわだて」「ほのかな」「たしなめ」は80%台であった。ちなみに、「たしなめ」は80%である。そしてもう一語の「あまりある」は59%と、極端に低い正答率となっている。

80%台の語を見てみると、90%台の語に比べて、文語的な色彩が濃い語彙といえるだろう。見たり、聞いたりしてなんとなく頭の中にある語彙であっても、使用するという段階においては、十分な定着にはなっていないグループの言葉といえそうである。80%の正答率だった「たしなめ」については、「少しは行動をたしなんだほうがよい」という誤答が多かった。これは、字義としての基本の所を押さえていれば過たない類のものと思われ、使用法という以上に、語彙そのものの定着としての誤答と考えられ、正答でないことの意味合いをとらえる指標になるものと思われる。

極端に正答率の低かった「あまりある」の誤答は、正答以外の選択肢に散っている状態である。これは、「～にあまりある」という言い回しが、文語的な表現として、生徒にはなじみの薄いものであったことを表していると思われる。回りくどい表現として、日常の中で眼にした文章の中からは、無意識の内に通り過ぎてしまっているということもあるかもしれない。

設問 1の4 (和語の選択)

正当率	語 彙			
A	やるせない (96%)	洗いざらい (94%)	いさかい (90%)	かけがえのない (96%)
B	矢つぎばや (62%)			
C	いき (55%)			
D	日より (20%)	人となり (35%)		

設問1-4は、示された字義に対して適当な語彙を選ぶ形式の問である。和語の設問中、68.5%と最も正答率が低かった。結果はA段階が五語、B段階が一語、C段階が一語、D段階が二語であった。

設問の形式としては、語義そのものを聞くものという意味では基本的なものと考えられるが、設問にした語彙が難しかったといえるのかもしれない。また、低い正答率の理由として、問の形式の面から考えられることは、示された語義が、語彙の意味の中の一部を示していることになるため、語彙の学習を、常に語と語彙とを文脈の中での一対一対応でとらえるような学習をしていると、この種の問が難しい設問になるということも言えるかもしれない。

語彙語との正答率を見てみると、「やるせない」「かけがえのない」「洗いざらい」「いさかい」は90%台、「矢つぎばや」が62%、「いき」55%、「人となり」35%、「日より」は20%であった。

以下、正答率の低い三語について考察を加えてみる。

「いき」については、誤答から見てみると、「あっぱれ」「わび」「たおやめぶり」との区別が付かないというようである。この結果からは、生徒は風趣を表す語彙にあまり慣れていないという印象を受ける。「人となり」は「人柄」という字義に対して問うたものだが、誤答には「人ごち」が最も多く、次いで「人でなし」が多かった。これは、自分の語彙にないものから選ぶか、聞いたことのある語彙から選ぶかという両極の解答傾向を示していると思われる。このことから、もしかすると「人となり」と答えた者も含めて、「人となり」という語彙自体が入っていない生徒が多い、という理解をしなければならないとも考えられる。「日より」は「事の成り行き」の字義に対して問うた語であるが、誤答には偏りがないため、語彙としての定着自体が低いものと思われる。

設問 1の5 (和語を使った表現)

正当率	語 彙		
A	きままに (80%)	かんばしい (82%)	まごつく (90%)
B	うるおう (72%)	ことごとく (69%)	
C	うれしい (44%)		
D			

設問1-5は、示された語彙を使って短文を作る形式の間である。A段階が三語、B段階が二語、C段階が一語という結果で、全体では72.8%と、和語の設問中、三番目の正答率であった。

語彙語との正答率は、「まごつく」が最も高く90%、「かんばしい」が82%、「きままに」が80%、次いで「うるおう」72%、「ことごとく」69%、「うれしい」が44%であった。

最も低かった「うれしい」については、その用法として過つものが多かった。特に「うれている」という語の活用をもって記述する生徒が目立った。今回の調査の中では、意味としてはある程度分かっているようであっても、正しく使用する語彙にはなっていないという意味での代表的な語彙といえるかもしれない。

「うるおう」「ことごとく」については、文脈の中で正しく使えないといった傾向が見られる。

「干ばつも心配されたが、かなりうるおっていた」のように、語の対応関係に不足がある状態で使われている例や、「ことごとく点を取られる」のように、「次々に」「どんどん」といった意味合いで使われている例、また「相手にことごとく敗れる」のように、一つの対象に対しての使用など、語の対応関係が十分でないまま、感覚的に使われている語彙のようである。

さらに、「かんばしい」については、「勉強をあまりしなかったこともあって、とてもかんばしい」のように、「よくない」という、逆の意味に取るものが数名見られた。これは、語の意味をとらえていない例としても考えることもできるが、通常使われる「かんばしくない」という使い方に引かれての誤答であったことも予測できるかもしれない。こういった面については、今後の問題作成の際に、考慮に入れておくことべきの一つといえるかもしれない。

和語のまとめ

問題別の正答率については、設問1-2が最も高く、次いで1-2、1-3、1-5の順であった。設問方法でいえば「文の中の()内に適語を入れる形式」、「当該の語彙について正しい使用がされているものを尋ねる形式」、「示された語彙を使って短文を作る形式」、「示された字義に対して適当な語彙を選ぶ形式」という順である。この結果がどのような意味を持つかについても、検討していく必要があると思われる。問の形式によって、正答率に差が出ているのか、または選ばれた当該の語彙によるものなのか、という点については、もし、前者がその理由であれば、問題にした全ての語彙を同じように「身につけているか否か」という規準で見ることができないことになる。また、それぞれの問い方において、「語彙が身につけている」といったときに「どんな意味で」「どんな範囲で」といった限定を加えることができるし、また設問の際にそれを意識的に活用する方途も考えていくことができるだろう。

文語的な表現については、文語的な文章そのものを教材として教えるという方途もあるかもしれないが、それ以上に、読んでいるものの文脈の中での意図的な取りあげ指導が有効かもしれない。

設問 1の6 (外来語の意味の理解)

正当率	語	彙
A	①ユニーク (93%) ②リアル (100%) ③スタンス (83%) ④メディア (91%) ⑤オーソドックス (93%) ⑥エッセイ (99%) ⑦メカニズム (98%)	
B		
C	⑧ラディカル (59%)	
D		

設問1-6は文の中の()内に、適語を入れる形式の間である。

C段階が一語、残りはすべてA段階であり、外来語の出題の中では最も正答率が高く、90%を越えたものが多い。これは四肢選択という出題形式によるものと思われる。

「リアル」100%、「エッセイ」99%、「メカニズム」98%、「ユニーク」と「オーソドックス」がともに93%、続いて「メディア」91%、少々離れて「スタンス」83%であった。

「ラディカル」の59%は中学生の日常生活には馴染みがないかもしれない。誤答例として最も多かったのが「ブラック」である。時代を感じさせる語である。

設問 1の7 (外来語の使われ方の理解)

正当率	語	彙
A	①アクセス (83%) ③ニーズ (87%) ⑤ユーモア (94%) ⑥レイアウト (96%) ⑧イベント (99%)	
B	②シェア (76%) ④エゴイスト (71%) ⑦メンテナンス (67%)	
C		
D		

設問1-7は、当該の語彙について、正しい使用がされているものを尋ねる形式の間である。A段階が五語、B段階が三語である。C、Dはゼロである。例文が与えられているからか正答率が高い。

A段階の上位から「イベント」99%、「レイアウト」96%、「ユーモア」94%、以下「ニーズ」87%、「アクセス」83%と続き、B段階は「シェア」76%、「エゴイスト」71%、「メンテナンス」67%であった。

誤答で一番多かったのが⑦で、「テレビの良さはバリエーション次第だね。」を正しいとしたものだった。

設問 1の8 (外来語の選択)

正当率	語	彙
A	①タブー (96%)	⑧オリエンテーション (84%)
B	③フィードバック (65%)	④プロセス (77%) ⑤エゴイスト (76%)
C	⑥イニシアチブ (48%)	⑦バリュー (57%)
D	②リベラル (22%)	

設問1-8は、示された字義に対して適当な語彙を選ぶ形式の間である。これは、外来語の設問中、一番正答率が低かった。A段階が二語、B段階が三語、C段階が二語、D段階が一語であった。

設問の形式としては、語義を尋ねるといふ最も基本的な問のはずであるが、返って難しかったのかも知れない。やはり、言葉は例文の中で生きて使われるからか……。

意外にも「タブー」が96%と高率である。以下「オリエンテーション」84%、「プロセス」77%、「エゴイスト」76%、「フィードバック」65%、「バリュー」は意外にも57%と低率。「イニシアチブ」48%、「リベラル」に至っては22%であった。「自由主義者」を意味する言葉に「エコノミスト」や「グローバル」を選んだ者が多かった。

設問 1の9 (外来語を使った表現)

正当率	語	彙
A	③メンテナンス (82%)	④コンプレックス (84%) ⑤リスク (85%)
B	②ジャンル (65%)	⑥ジャーナリズム (65%)
C		
D	①ジレンマ (32%)	

設問1-9は、示された語彙を使って短文を作る形式の間である。結果は比較的良好であったが、「ジレンマ」(32%)の使い方が熟していないものが多かった。A段階では、「メンテナンス」82%、「リスク」85%、「コンプレックス」84%、B段階は「ジャンル」「ジャーナリズム」とともに65%であった。「夏目漱石の『こころ』は、文学のジャンルではとてもよい作品だ。」や「商品の開発においては、かなりのリスクを必要としている。」など語義を正確に把握していないものが多かった。

外来語のまとめ

上記の結果を通して眺めると、問いの形式によってその出来不出来が大きく左右されるようである。「示された語彙を使って短文を作る形式」が最も正答率が低いが、もしここで取り上げた語を「例文」の中で問い直したならば、また別の結果になったように感じた。出題形式についても今後検討し

ていく必要がある。

正答率の高い順に「文の中の（ ）内に、適語を入れる形式」「当該の語彙について、正しい使用がされているものを尋ねる形式」「示された語彙を使って短文を作る形式」そして、上述の「示された語彙を使って短文を作る形式」であった。

よく使われる外来語でも、文脈の中で正しく使うことはまだまだ不足していると思われるので、その補強、並びに中学生にふさわしい外来語の選定についても今後検討を深めたい。

設問 2の1 (漢語の意味の理解)

正当率	語 彙			
A	③遂行 (96%)	④欠如 (95%)	⑥承諾 (88%)	⑦執着 (93%)
B	①規律 (77%)	⑤情緒 (74%)	⑧余暇 (69%)	
C				
D	②変遷 (20%)			

設問2-1は、〈空欄にあてはまる適切な漢語を選択する問題〉である。選択肢に意味の似通った漢語を集め、文脈の中で適切に用いることができるかどうかを問うた。難易度はやや高いと思われたが、結果は、8語のうちA段階が4語、B段階が3語、D段階が1語であった。

A段階の語は、「任務を〔遂行〕する」96%、「責任感が〔欠如〕する」95%、「金もうけに〔執着〕する」92%、「先生の〔承諾〕を得る」88%の正答率であった。「執着」については、設問1-1〈漢語の読みの問題〉での正答率が55%と低かったにもかかわらず、本設問で92%と高率であった。問題に工夫が足りなかったものとする。B段階の語は、「規律」77%、「情緒」75%、「余暇」69%であった。誤答としては、「〔規律〕ある行動」の代わりに「秩序」を選んだ者が全体の20%、「〔情緒〕が不安定」の代わりに「感情」が19%、「〔余暇〕を活かす」の代わりに「寸暇」が17%いた。類似した意味のため選択に迷ったものと思われる。

D段階の「時代と共に〔変遷〕する」は正答率20%という低さで、設問1-1〈漢語の読みの問題〉での28%とほぼ同様の傾向を示した。誤答の「変動」を選択した者は全体の54%にも上った。

設問 2の2 (漢語の使われ方の理解)

正当率	語 彙			
A	①静寂 (95%)	②威厳 (88%)	④恩恵 (83%)	⑦搜索 (93%)
B				
C	⑤救済 (47%)	⑥安泰 (57%)	⑧超越 (57%)	
D	③明朗 (5%)			

設問 2 - 2 は、〈似たような意味をもつ漢語の用例の中から正しいものを選択する問題〉である。複数の漢語のそれぞれの用例が正しいかどうかを判断しなければならず、難易度が高くなったと考えられる。

8 語のうち、A 段階は 4 語、C 段階が 3 語、D 段階が 1 語であった。

A 段階の語は、「〔静寂〕を破る」95%、「行方不明者の〔搜索〕」93%、「〔威厳〕が備わる」88%、「〔恩恵〕を受ける」83%。なお、①の問題文に誤植があり、イ・ウ共に「〔静寂〕を破って」となっていたため、両方を正解とした。本来は、ウ「〔静肅〕を破って」（誤答）とする予定であった。

C 段階の語は、「安泰」「超越」が57%、「救済」47%であった。これら 3 語は、設問 1 - 1 〈漢語の読みの問題〉ではすべて A 段階に属していた。正答率が低くなったのは、読むことはできても、中学生にとってはなじみの薄い漢語であったからと言えよう。目についた誤答としては、「利害を〔超越〕した行為」を誤りとし、「〔超過〕サービス」を正しいとしたものが30%あった。

D 段階の語は「明朗」で、わずか 5 % の正答率である。この問では、「明るく、朗らかなこと」ではなく「公正に行われている」意の用例を選択肢としたため、極めて難しくなったと考えられる。

設問 2 の 3 (漢語の選択)

正当率	語	彙			
A	⑤謙虚 (88%)				
B	③迎合 (65%)	⑧呼応 (60%)			
C	①資質 (56%)	②敬服 (54%)	④体裁 (56%)	⑥寛容 (59%)	⑦過失 (59%)
D					

設問 2 - 3 は、〈示された語義に対し適切な漢語を選択する問題〉である。

8 語のうち、A 段階は 1 語、B 段階が 2 語、C 段階が 5 語という結果となった。紛らわしい選択肢が多く、難易度が高かったと思われる。

A 段階の語は、「謙虚」88%。

B 段階の語は、「迎合」65%、「呼応」60%である。「〔迎合〕する」では、「機嫌をとる」を選んだ者が32%いた。「呼応」は中学生にとって、中1の文法で「呼応の副詞」を学習するときくらいしか見聞きしない語かもしれない。「通じ合う」の意味に引かれてか、40%が「精通」を選択している。

C 段階の語は「寛容」「過失」が59%、「資質」「体裁」が56%、「敬服」が54%であった。「寛容」の誤答として、「甘受」が21%、「勘弁」が17%いた。「甘受」は「受」の字に引かれたのであろう。「過失」については26%が「失態」を、「資質」では35%が「才覚」を選択している。「体裁」では、「面目」「見栄」を選択した者がそれぞれ20%、22%いた。「〔敬服〕する」では32%が「崇拜する」を選んだ。

設問 2の4 (漢語を使った表現)

正当率	語彙
A	①支障 (94%) ②軽率 (86%) ③共存 (95%) ④把握 (96%) ⑤賢明 (86%) ⑥激励 (91%)
B	
C	
D	

設問2-4は、〈指定された漢語を用いて文を完成させる問題〉である。

6語すべてがA段階で、高い方から「把握」96%、「共存」95%、「支障」94%、「激励」91%、「軽率」「賢明」86%であった。文の導入部分が長く状況の設定が分かりやすかったこと、新聞やテレビなどでよく見聞きする漢語が多かったことなどが、正答率の高さに結びついたものと考えられる。以下に、用例も含めて述べる。

「把握」については、ほとんどが「状〔情〕況を把握する」という用例であった。

「共存」については、「AとB(と)が共存する」「AがBと共存する」「両者が共存する」などの表現で、概ね適切に用いていた。「共存共栄」とした例が1例あった。

「支障」の用例は、多い順に「支障が出る」「支障を来す」「支障が生じる」であった。

「激励」については「～から激励を受ける(される)」「～を激励する」「激励の言葉(手紙)」などの表現を用いていた。誤答としては、「～に激励する」のように助詞の使い方を誤ったもの、「檄を飛ばす」＝「激励する」と誤って「激励を飛ばす」としたものなどがあった。

「軽率」については、導入文に「ても」を用いていたことから、結果的に、「軽率」の意味・用法だけでなく接続助詞の使い方をも問うことになってしまったが、比較的よく捉えていた。

「賢明」については、「～する(しない)方が賢明である」「賢明とは言えない」などの表現を用いていた。誤答で目についたのは、同音異義語の「懸命」と意味を取り違えたものである。また、無解答の者が5%いた。

漢語のまとめ

漢語の設問の中で最も正答率が高かったのは、設問2-4〈指定された漢語を用いて文を完成させる問題〉であった。すべてがA段階、これは予想以上に高率であった。これらの語はいずれも、テレビのニュースや新聞記事などでしばしば用いられていることが影響しているものと思われる。

学習にあたっては、語の読みや意味を単に覚えるのではなく、実際の文章や会話の中で使用されているものをまとめた表現として身に付けるさせること、例えば、「支障を来す」「支障が生じる」などのように、後に続く助詞や動詞などと共に学ばせることが必要である。

さらに、漢語の読みに関しては、中学校学習音(訓)にとらわれることなく、ルビ付きで表記してある文章に触れる機会を増やして、自然に身に付くようにさせたいものである。

語彙力を向上させる機会は、国語の学習場面以外にもある。他教科の学習や、メディアとの接触、読書等を通じて学ぶことの方がむしろ多いであろう。すべてが語彙力に結びついている。

設問 2の5 (四字熟語・慣用句の意味の理解)

正当率	語	彙
A	②栄枯盛衰 ③手前みそ ④八方ふさがり ⑥根も葉もない ⑦石橋をたたいてわたる	⑤あぶはちとらず ⑧虫が知らせる
B	①四面楚歌	
C		
D		

この設問は、文中の括弧内に適切な語句を入れる形式のものである。

設問2-5は、八問中、B段階が一語、残りは全てA段階にあり、「慣用句・ことわざ」の中でも正答率が最も高く87%であった。これだけ正答率が高いのは、和語の場合と同じく出題の形式によるものと思われる。

うち、九割を超えるものは「根も葉もない」97%、「虫が知らせる」96%、「栄枯盛衰」90%である。「根も葉もない」は、問題文が「噂」に続くものを選ばせるものであったから、比較的解答が選びやすかったのかもしれない。「虫が知らせる」は、中学生にとってなじみのある語句といえよう。仏教語である「栄枯盛衰」といった四字熟語の正答率が高いのは意外であった。

八割のものは、「石橋をたたいてわたる」88%、「あぶはちとらず」82%、「手前みそ」80%の三語である。「石橋をたたいてわたる」や「あぶはちとらず」は、たとえ聞いたことがなくても読んで意味が推測しやすい語句だろう。「手前みそ」の正答率が他の語彙に比べてやや落ちるのは、家庭でみそを作るといことがないことが一つの理由になっているのかもしれない。

B段階の「四面楚歌」の正答率は75%。高校の国語で『史記』項羽本紀は採り上げられるところが多いから、高校生の正答率はかなり高いのではないだろうか。なお、中学校の教科書では光村図書の3年生用の教材に項羽本紀が採り上げられており、この教科書を用いた生徒に語彙力調査をした場合、同じく正答率が上がるとと思われる。

設問 2の6 (四字熟語・慣用句の使われ方の理解)

正当率	語	彙
A	②さじを投げる ③すみに置けない ⑤ねこをかぶる ⑥ぬかに釘	④取りつく島もない ⑦無用の長物
B	①一朝一夕 ⑧怪我の巧妙	
C		
D		

この設問は、当該の語彙について、正しく使用されているものを選択するというものである。

B段階が二語、残りの六語はA段階に属する。「慣用句・ことわざ」の中では、三番目に正答率が高く、86%であった。

九割を超えた語句が、「さじを投げる」97%、「ぬかに釘」93%、「すみに置けない」90%の四語である。これらの四語は、いずれも日常生活の中で使いこなされている語句といえよう。八割の語句は、「無用の長物」85%、「取りつく島も無い」81%の二語。「無用の長物」は、この語句を知らなくても、「無用」という語句から意味が大体想像できるかも知れない。一方、「取りつく島も無い」は、語句から意味を推測するのは困難であろう。そういう意味で正答率がやや低くなっているのかも知れない。

B段階に該当する語句は、「怪我の功名」75%で、「一朝一夕」は7割を切る69%。「怪我の功名」は、怪我と功名の関係がつかめると案外意味が想像できるだろう。逆に「一朝一夕」は、この四字の中に分からない漢字は一つもないだろうが、そこに集約されている意味が分かりにくいものである。それだけに正答率もかなり低くなったと思われる。同時に、中学生にとってこの二語はそれほど日常生活において、なじみ深い語句ではないと判断してよいだろう。

設問 2の7（四字熟語・慣用句の選択）

正当率	語 彙
A	②空前絶後 ⑧光陰矢のごとし
B	④一目置く ⑤背水の陣
C	①情けは人のためならず ⑥筆が立つ
D	③気がおけない ⑦過ぎたるは及ばざるがごとし

この設問は、示された字義に対して適当な語彙を選ぶ形式の問である。和語同様、「慣用句・ことわざ」の設問のうち、61%と最も正答率が低かった。A段階、B段階、C段階、並びにD段階の語句がいずれも二語ずつあった。

A段階の語句は、「光陰矢のごとし」96%と「空前絶後」81%。前者は意味の定着率が高いのに対し、後者が低いのは使用頻度の差によるのかもしれない。B段階の語句は「背水の陣」が71%、「一目置く」が60%である。「背水の陣」は、韓信の故事（『史記』）を知らないという解答が得難い問である。「一目置く」は、囲碁に由来する語彙であるが、中学生にはなじみの無い語句のようである。

C段階の二語は「情けは人のためならず」55%と「筆が立つ」50%。「情けは…」の正答率が低いのは、言わば、望文生義になりがちな語彙だからに違いない。「筆が立つ」は、正答は「文章がうまい」であるが、誤答の「字がうまい」を選んだものが多かった。D段階は「過ぎたるは及ばざるがごとし」38%、「気がおけない」35%である。「過ぎたるは…」は、正答は「何事もほどほどがよい」なのだが、誤答の選択肢に「何事もやりすぎはよくない」という正答とはみなすことができないものがあったので、これだけ正答率が低くなってしまった。出題者側に問題があった問である。「気がおけない」は「情けは…」と同じく、望文生義になりがちな語句の一つである。知識があるかないかを問う問題といってよい。

設問 2の8 (ことわざ・慣用句を使った表現)

正当率	語彙
A	①七転八起 ②あとの祭り ⑤頭角をあらわす ⑥異口同音
B	④板につくる ⑤たかをくくる
C	
D	

この設問は示された語彙を使って短文を作る形式の間である。「慣用句・ことわざ」の設問のうち、二番目に当たる86%の正答率であった。A段階の語句が四語。B段階に当たる語句が二語である。

A段階で九割を超えるものは「七転八起」95%を筆頭に、「あとの祭り」「異口同音」同率92%である。この三語はかなりなじみのある語句といえよう。また「七転八起」「異口同音」は、漢字から意味を推測しやすい四字熟語であって記憶しやすいものといえる。「頭角をあらわす」は85%である。やや正答率が落ちたのは、先の三語に比べてなじみが薄いということ、また読んだだけでは意味がなかなか想像し難いものだけということによるのだろう。

B段階のものは「板につく」79%、「たかをくくる」75%の二語である。「板につく」は、もとは俳優の演技が舞台に調和することを意味したが、転じて動作態度などが、その地位や職業などによく似合っていることを意味する語句である。「(練習したかいあって) スイングがだんだん板についてきた」(※「練習したかいあって」はあらかじめ問題用紙に書かれている)のような解答は問題無いだろうが、「(練習したかいあって)、姿が板についてきた」というような、正答にするのに判断を迷ってしまう解答もいくつかあった。「たかをくくる」の誤答としては、「くくる」という語から想像して「住んでいてもいつかはたかをくくる時がくるだろう」といった珍解答があった。

ことわざ・慣用句のまとめ

「慣用句・ことわざ」全体の正答率は80%であり、出題した語彙については、かなり使いこなせていると考えられる。ただ語彙の意味を正しく説明できるかということについては、設問2-7が物語っているように、多くのものが説明できないだろうと想像される。

設問にとりあげた語彙は大きく三種類に分かれると思う。一つは、「石橋をたたいてわたる」や「ぬかに釘」また「七転八起」といった語彙で、これらは意味が分かりやすい分、記憶にも残りやすいものである。また一つは、これらとは逆に元の意味を知らないと解答が全く得られない質の語彙、いわば典故を理解していないと意味が分からない語彙で、「背水の陣」や「一目置く」などがその例に当たる。もう一つは、望文生義になりがちなものである。ある慣用句やことわざの字句に意味の分からない語句が一つもないだけに、思い違いをしてしまうもので、「情けは人のためならず」「気がおけない」などがその例に該当する。

以上のうち、最も記憶に残りやすいものは一番目であろう。二番目に当たる語彙については、知識の有無が正答率を左右する。知識がないとさっぱり意味が分からない語彙であるだけに、意識的に覚えようとする力が最も働く語彙と言えよう。記憶するのに難しいと思われる語彙が三番目のものである。読んで何となく意味が分かっただけに、勝手な判断が働き原義と乖離してしまうだけでなく、望文生義によって得られた意味が独り歩きをしてしまう。正答率が低くなってしまうのは、明らかにこうした語彙であろう。生徒に教える場合にも、こうした語彙について注意を喚起することが大切だと思う。

〔高等学校〕

A 80% 以上 B 60~80% 未満 C 40% ~60% 未満 D 40% 未満

設問 1 の 1 (漢字の読み)

正当率	語彙
A	完璧 蛇足 以心伝心 (100%) 寒心 屈指 啓蒙 失脚 指南 推敲 雪辱 矛盾 連座 登竜門 温故知新 疑心暗鬼 五里霧中 紙面楚歌 竜頭蛇尾 (95% 以上) 光陰 (6人読めず) 破天荒 (10人)
B	寸暇 (10人) 独壇場 (29人) 老婆心 (21人) 呉越同舟 (20人) 羊頭狗肉 (19人)
C	星霜 (39人) 風聞 (35人) 遊説 (37人) 未曾有 (39人)
D	焦眉 (51人)

比較的良好に読めるという結果が出た。しかし、内容を精査してみると、問題も多々ある。

まず第一は、80人中三人は3分の1以上の語が読めていないことである。11語読めない者が一人、12語読めない者が一人、19語読めない者が一人おり、これらの生徒は、今後国語力を高める上で語彙力が重大な障害となると考えられる。ことに19語と、全体の3分の2の語が読めなかった生徒については今後は大変憂慮される。国語の普段のテスト結果と比較してみる必要がある。

第二の問題は6割以下の者しか読めなかった語が4語あることである。いずれも日常生活ではなじみの薄い語であろうが、「風聞」「遊説」「未曾有」など、けっして日常で使われない語ではない。殊に、風聞、未曾有などは、文章上けっして使用頻度は少なくない。むしろ文章を読解していく上では欠かせない語である。生徒が日常生活の中で使わない以上、学習の中で指導者が教えなければ使えないままになってしまう。また、「星霜」「焦眉」は日常会話でも文章中でも使用頻度が少ない語である。したがって、その語単独の読み、意味ではなく、「星霜を重ねる」「焦眉の急」など、まとまりをもったものとして理解する方がいいだろう。まとまりをもつ慣用的な表現として理解させる指導の必要があろう。

第三の問題は、学習時間、機会の問題である。「独壇場」「老婆心」「呉越同舟」「羊頭狗肉」などはおそらく以前の高校生であれば、今回の調査でもほとんどの者が読めた「温故知新」「疑心暗鬼」と同様、普通に読めた語であろう。故事やいわれを一度聞けば、そのまますんなりと理解定着される語だからである。したがって、こうした語が読めないのは、こうした語に触れる漢文などの学習の時間や機会が減っていることが原因と考えられる。この調査からも明らかに生徒の学習条件が以前と異なってきていることが分かる。

設問 1の2 (和語の意味の理解)

正当率	語	彙
A	①しいる (96%) ⑤しのびない (87%)	②いぶかる (82%) ③心もとない (95%)
B	⑧やぶさか (64%)	
C	④なおざりな (54%)	⑥したり顔 (55%)
D	⑦かこつ (26%)	

一文の空欄の中に入れるのに最適な語彙を選ぶ問題である。具体的な文が示されているので、空欄の前後をよく読めば、どのような意味の言葉をもって来るべきかが掴みやすい。全体の傾向としては、次のような点が見られた。まず、日常生活で用いることの多い語彙についての設問や他の選択肢の中に迷うものが少ない設問については、正解率が高かった。①「しいる」(96%)③「心もとない」(95%)⑤「しのびない」(87%)などは前者にあたり、②「いぶかる」(82%)は後者にあたる。

逆に正解率の低かったものは、生徒たちの年代ではほとんど使わない語彙についての設問や似た言い方をするものが選択肢に含まれている設問などである。⑧「やぶさか(でない)」という言い方にすべきところに、「つきなみ」を選んだ生徒が比較的多かったのは「つきなみでない」という表現がよくされるからであろう(正解率64%)。④「なおざりな」を入れるべきところを「ざっくばらんな」を選んだ生徒は、両方の語を普段使ったことがなく、意味も分かっていないのだろう(正解率54%)。⑥「したり顔」を「えびす顔」とした生徒は、比較的近いものを選んだが、文全体の意味合いを解釈する力に欠けていた(正解率55%)。最も正解率の低かった⑦「かこつ」(26%)は、言葉としてのなじみがない上に、「ぶちまける」を選んだ生徒が多かったことから分かるように、「不満をぶちまける」の言い方と混同しやすかったのだろうと思われる。

設問 1の3 (和語の使われ方の理解)

正当率	語	彙
A	①あえて (100%) ⑦根回し (96%)	②あからさまに (99%) ④思惑 (95%) ⑤くまなく (92%)
B	⑧いたたまれない (76%)	
C	③おしなべて (54%)	
D	⑥うらぶれた (36%)	

ある語彙の使い方として最適な一文を選ぶ設問である。語彙の意味が分かっているだけではなく、その具体的な使い方や言い回しなども知らないと答えられない。しかしこの問題については、日常生活でよく使う言葉が比較的多かったせいも、正解率が全体的に高かった。ことに①「あえて」は一人もまちがうことなく、正解率100%であった。②「あからさまに」④「思惑」⑤「くまなく」⑦「根回し」なども、ほぼ全員正解であった。76%にとどまった⑧「いたたまれない」は、選択肢アの「いたたまれなくなって」という、よくある言い方に引きずられて選んでしまった生徒が若干いたことが影響したようだ。

正解率の低かった③「おしなべて」(54%)の答えとしてイヤエを選んだ生徒は、言葉の意味そのものを理解していないためと思われる。聞いたことはあるけれど、意味は確認してこなかった言葉の代表なのではないか。この問題中、最低の正解率36%の⑥「うらぶれた」もその類の言葉であろう。ウヤエを選んだ生徒が多いが、どんな意味の一文として読んでいるのだろうか。ちょっと想像しにくい。

設問 1の4 (和語の選択)

正当率	語	彙
A	③うなぎのぼり (95%)	⑤耳ざわり (97%)
B	④老舗 (76%)	
C	①とみに (43%)	②つとに (47%) ⑧さいなむ (54%)
D	⑥やつす (22%)	⑦うがつ (29%)

この問題は文が示されず、単語の意味を選択肢の中から選ぶものである。前後にヒントがなく、なじみの薄い語彙が多かったため、全体としては正解率が低くなった。

ただし日常生活でよく使う語彙は、もちろんよく理解している。③「うなぎのぼり」や⑤「耳ざわり」は、ほぼ100%である。⑤は誤解されやすい言葉であるにもかかわらず、高い正解率であった。④「老舗」が76%とやや落ちるのは、選択肢アに惑わされたようだ。

①「とみに」②「つとに」⑧「さいなむ」は40~50%といったところであった。どれも割合よく耳にするはずの言葉なのだが、意味を確かめずになんとか聞いてきたといった類のものであろう。これを機会に的確に使えるようになってほしいものだ。

⑦「うがつ」は29%、⑥「やつす」に至っては22%となる。なお⑥の「やつす」は、高校段階の和語の設問における最低の正解率である。「うがつ」は普段読む文章にでてくる頻度もそれほど高くはないが、「うがち」「うがった見方」等の言い方を目にしたり耳にしたことはあるだろう。文の中にある場合はなんとなく意味が分かるような気がしても、いざ一語で問われると答えにくい言葉である。「やつす」は「やつれる」と混同した生徒が多かった。そのため、選択肢ア・ウを選んでしまっている。他動詞と自動詞の区別といったことなどにも注意を払わないようだ。

設問 1の5 (和語を使った表現)

正当率	語彙
A	③こよなく (93%)
B	①おぼつかない (74%)
C	⑥値する (57%) ④たそがれ (49%) ……「夕焼け」をイメージするものを認めた場合 ②たしなみ (46%)
D	⑤ゆゆしい (32%) ④たそがれ (29%) ……「夕焼け」をイメージするものを除いた場合

この問題は、ある語彙を用いて、指定された言葉から始めて短文を作るものである。外来語でも検査1-9において同じ形式の設問を置いたが、それよりも出だしの言葉を短くし、より自由に答えさせるようにした。この問題は、採点した結果から考えさせられることが多くあった。そのうちの二点を以下に述べる。

第一に、提示した言葉の品詞が何かということについてとくに意識しない傾向が強いということである。①から⑥まで六個の和語を問題として並べ、「活用させても可」としたところ、こちらの意図したのとは異なる品詞ととらえて使う生徒が非常に多かった。たとえば②の「たしなみ」は当然のことながら名詞として出題したのだが、正解者35名の中で名詞の形で答えていたのはわずかに9名で、あとは勝手に動詞とし、「茶道を少々たしなんでいます」などの文を作っていた。出題者は辞書の見出しと同じように考えて当然と思っていたが、生徒の認識は必ずしもそうではなかったのである。

第二に、語の意味の「変遷」と「誤用」の見極めがむずかしいということである。それを痛感したのは「たそがれ」だった。生徒の解答は、「たそがれ」の語源「誰そ彼」の暗さを意識しないものが多い。むしろオレンジ色の「夕焼け」のイメージを思い浮かべている解答が非常に目立った。(18%)たとえば、「空は黄昏色に染まった。」というふうに。これは、もともとの意味からは間違いであろうが、このような言い方は近年確かによく耳にする。「黄昏」という漢字をあててあることがカラフルな印象を強くもたせることにつながったのだろう。果たしてこれは「誤用」なのか？それとも、現代では認められている言い方なのか？迷うところだ。「たそがれ」については、生徒の答えとして目立ったものがもう一つある。「悲しい気持ちで、彼はひとりたそがれていた。」のような答えである。「しょんぼりしている」くらいの感じだろうか。これを書いたのはなんと全体の25%。にもなる。通例の言い方としては認めがたく誤答としたが、彼らにとってはこの答えは立派な「正解」なのだろう。

和語のまとめ

和語についての調査結果(高校)全体を通して感じたことを二点述べておきたい。

第一に、意味の変遷についてである。今回の語彙調査で取り上げた和語は、当然ながら古語と深いかわりをもつものが多い。長い年月使用されるうちにその意味は少しずつ変わっていく。また同じ社会においても、いわゆる「若者言葉」「流行語」としての扱いを受け、正式な意味や言い方として認められない場合もある。どの時点で「正しい」意味として認められるのか。これはたいへんむずかしい。第5問の「たそがれ」のところで述べたように、たいへん多くの人が使用している場合、意味が変化したものとして「正しい」あるいは「慣用」と認めてよいものかどうか。他の語彙の場合とも

比較しつつ、考えていきたい。

第二に、語彙を「知っている」と「理解すること」、「使いこなすこと」の間にある隔たりについてである。第3問・4問にあった「おしなべて」「うらぶれた」「さいなむ」などは日常的に目にしたり耳にしたりする機会が多いはずだが、正解率は50%前後、あるいはそれ以下であった。生徒たちの意識の中では「それ、知ってる」という部類の語彙なのだろうが、他の言葉で正しく言い換えたり、会話や文章の中で正しく使ったりはなかなかできないということになる。「知っている」言葉を「理解し」「使いこなせる」ようにするにはどのようにすればよいのだろうか。表現指導の方法を考える際の、注目すべきポイントの一つとなると思う。

言葉は生き物であり、使われ続けることによってその命を保つ。日本の社会で長く使われてきた言葉をこれからも大切にしていくために、私たちは何をしてゆくべきなのか。この大きな課題に、今後とも取り組んでいきたい。

設問 1の6 (外来語の意味の理解)

正当率	語	彙
A	ビジョン (97%) イベント (96%)	ノスタルジー (91%) シチュエーション (100%) エコロジー (97%) ストレス (100%) ネガティブ (88%)
B	コンセンサス (74%)	
C		
D		

設問1-6は、文中の空欄に、四つの選択肢の中から適切な語を選ぶ形式の問題である。

A段階の語が8問中7問あり(ビジョン、ノスタルジー、エコロジー、ネガティブ、イベント、シチュエーション、ストレス)、正答率は非常に高い。「シチュエーション」「ストレス」は100%正解であった。日常生活で使用する機会の多い語であり、完全に語彙として定着していると思われる。

B段階の1語は「コンセンサス」で、「地域住民の()を得て……」という文脈にもかかわらず正答率が74%に留まった。「コンセンサス」の正答率が低い理由として、まず他の選択肢の語との混同によるものが考えられる。設問では「コンセンサス」の他に、フォロー、サンプル、シフトの3語を選択肢として使った。しかし、「サンプル」との混同が多少あるものの、それほど選択に迷う語ではないと思われる。やはり、この「コンセンサス」という語自体の理解度が低かったのが主たる原因であろう。とはいえ「ネガティブ」といった、日常生活では使用頻度の低い語でさえ、正答率が88%であり、それに比較すると低さが目立つ。新聞の記事やニュースで使用されることも多い語であるのに正答率が低いのは、生徒の社会的な事柄に関する知識や興味が低くなっていることとも関連するのかもしれない。カタカナ語については、耳にただけでは理解できるものではないので、興味を持って内容を理解しようとする態度が語彙力を高めるのだと思われる。こうした語の定着のためには、一般的な新聞記事やニュースに触れる機会を増やすことが大切だろう。

設問 1の7 (外来語の使われ方の理解)

正当率	語 彙		
A	アイテム (99%) テリトリー (87%)	イデオロギー (91%) モチベーション (92%)	インスピレーション (80%) ヒューマニズム (91%)
B			
C	ジェンダー (58%)	レトリック (59%)	
D			

設問1-7は傍線部の語が正しく用いられている文を四つの選択肢の中から選ぶ形式の問題である。

A段階の語は8問中6問。アイテム、イデオロギー、インスピレーション、テリトリー、モチベーション、ヒューマニズムである。「インスピレーション」が80%の正答率でやや低いものの、かなり高い正答率だといえよう。「ジェンダー」(58%)と「レトリック」(59%)の2語がC段階の正答率であった。この正答率の低さは全設問の中でも特に目立つものである。考えられる原因として、二点あげられよう。まず、「ジェンダー」「レトリック」の2語の特殊性である。「ジェンダー」は、生徒にとって身近な言葉ではなく、目にする機会が少ない語であろう。しかし、正答率が58%であるのは、他の設問で取り上げた「フェミニズム」の正答率89%に比較すると低すぎる感がある。「レトリック」に関しては、語自体が高校生に定着していないようである。やや正答率が低かった「インスピレーション」と同様、現在の生徒にはなじみが薄い語で、使用頻度も下がっている語だと言えるかもしれない。「アイテム」が99%正解だったことと対照的である。

この問題形式の場合、選択肢として使用した他の語の影響も考えなければならず、「ジェンダー」「レトリック」の2語の特殊性だけが原因であるとは確定できない面もある。「レトリック」の場合、他の選択肢で「デリバリー」「オンブズマン」「メンテナンス」を使った文章をあげたが、それらの誤りに気づきにくかったため、正答率が下がったのかもしれない。この出題形式では、誤りを含んだ文章をあまり紛らわしい形で出題すると、正確に語彙力を問うことができない。誤りとした語のレベルをどの程度にするべきか、今後の問題作成における課題であろう。

設問 1の8 (外来語の選択)

正当率	語 彙		
A	アイデンティティ (83%) テクノロジー (89%)	パラドックス (84%) フィードバック (99%)	ロジック (88%) フェミニズム (89%)
B	インフォームドコンセント (71%)	バリエーション (76%)	
C			
D			

設問1-8は、語の意味を提示して、適切な語を選ぶ形式の問題である。

A段階の語は8問中6問。アイデンティティ、パラドックス、ロジック、テクノロジー、フィードバック、フェミニズムである。いずれも正答率は90%前後である。これらの語については、それほどやさしい語を選んだつもりではなく、逆に意味を提示するという設問形式なので、やや難度の高い語を選んでしまった傾向があったにもかかわらず、このような結果になった。これは、意味が提示されていれば、かなり抽象的な語、使用頻度の少ない語でも正答率が高くなることを示している。カタカナ語については、正確な理解をしていなくても、それが用いられる分野や文脈に基づいて、かなりの判断ができるのではないだろうか。意味は何かと聞かれて答えられなくても、こうした設問には対応できる能力は身につけているという結果、こうした正答率になったと考えられる。

B段階の2語については、「インフォームドコンセント」は医療関係の用語として、社会的に使用頻度が高くなりつつある語だと思われるが、やはり、まだ一般的に定着していないため、71%の正答率であったのだろう。設問1-6「コンセンサス」、設問1-7の「ジェンダー」と並べてみたときに、同様の傾向を示しているのがうかがわれる。もう一つの語、「バリエーション」については、語の意味として「物事の変化・変動。物の変型、変種。」をあげた。これが設問として適切な意味であったどうか、反省材料である。しかし「バリエーション」という語が日常生活では、かなり安易に用いられている傾向があり、正確な語の意味について意識されていないことも正答率が低い原因としてあげられよう。

設問 1の9 (外来語を使った表現)

正当率	語 彙			
A	ニュアンス (88%)	ニーズ (82%)	インパクト (99%)	リスク (97%)
B	エゴイズム (72%)	グローバル (66%)		
C				
D				

設問1-9は、提示された語を使用して短文を作る形式の問題である。

6問中4問がA段階の正答率であった。ニュアンス、ニーズ、インパクト、リスクである。B段階の語は「エゴイズム」「グローバル」の2語である。

設問の方法として、文の書き出しを限定し、字数制限を設けた。例としてあげるならば、「エゴイズム」の出題については「この小説の主題は、」という書き出し、「グローバル」については「二十一世紀の世界は、」という書き出しを与えた。これは、使用した語の意味を理解して作文しているのかどうか判断しにくい文を排除しようという目的であったが、使用場面を限定してしまうという欠点もある。また、15字から30字という字数制限によって、あまりに短くて語の意味が理解できているのかどうか、判別しにくいものは誤答として扱った。こうした点が正答率にも影響しているかもしれない。それでも「インパクト」や「リスク」といった語は、ふだんから目や耳にする機会も多く、使用することも多いのであろう、正答率は99%、97%と非常に高い。

「エゴイズム」の正答率が72%というのは、例えば小説を学習する際などに用いられるだろうという予想からすると、意外な結果であったが、「この小説の主題は、エゴイズムだ」などの字数不足の解答も誤答としてカウントしたため、正答率が下がったことも考慮すべきであろう。語の理解だけ

でなく作文能力も影響してくる設問形式のため、作文しやすい語を選ぶ視点も必要だったかもしれない。

「グローバル」については「グローバル化する」「グローバルな視点で」といった正答を期待したのであるが、そのような用例は意外に少なかった。単純な名詞として使用した「グローバル社会」といった例や他の設問よりも無解答が目についた。「グローバル」という語については、意味をあいまいにしか理解しておらず、文章として活用する力が不足しているといえよう。

外来語のまとめ

全体的にみて、カタカナ語（外来語）の理解力は高い。出題した30問のうち、B段階の語が五つ、C段階の語が二つだけで、他の23語はA段階という結果であった。もちろん難解な専門用語などは排除してあるが、予想よりも正答率が高かったという印象を持った。

しかし、個々の設問での解説でも述べたことだが、カタカナ語については、正確な理解をしていなくても、それが用いられる分野や文脈から見当が付き、意味は何かと聞かれて答えられなくても、設問には対応でき解答することができるようだ。そのような点が他の分野の語彙力と違う特色であり、あいまいな理解ですませている点をもっと精査してみるべきだろう。だいたいの意味はつかんではいるが、誤った使い方を判別する力、適切な文章を作文する力については欠けている語が多いのではないか。語彙力といった場合、そうした総合的な意味で語を理解し使用する力をつけなければいけないと思われる。

カタカナ語は、耳にただけでは理解できるものではないので、興味を持って内容を理解しようとする態度が語彙力を高めるのだろう。カタカナ語の語彙力形成のためには、日常生活での社会的な事柄への興味・関心、言葉に対して意識的に理解しようという姿勢を養うことが求められる。

設問 2の1（漢語の意味の理解）

正当率	語 彙			
A	①屈指 79/80 ⑦疑心暗鬼 76/80	③寸暇 70/80 ⑧五里霧中 73/80	④完璧 79/80	⑤未曾有 64/80
B	②連座 56/80	⑥独壇場 61/80		
C				
D				

空欄に適語を入れる設問である。ほぼ定着している語と判断できる。

①は「屈指」を選ぶもので、79/80という正答率である。この語は完全に定着していると判断してよい。②は「連座」を選ぶもので、56/80という結果である。「汚職事件に（ ）して逮捕される。」誤答では選択肢ア「指南」を選んだものが16名と多い。指南を指導と混同したためか。次にイ「特筆」が8名と多い。新聞記者を連想したのかもしれない。③は「寸暇」を選ぶ問題で、70/80という正答。「（ ）を惜しんで研究する。」誤答は全員がイの「努力」であった。思わず苦笑させられた。④は「完璧」で、79/80とほぼ完璧。ただし、これを書き取りとして出題し

た場合、「完璧」と誤る者が多いと予想される。漢文の故事の部分から理解させる必要がある。⑤は「未曾有」で、64/80。「()の経済恐慌が起こる。」誤答は、イ「断末魔」が12名と最も多い。「経済恐慌」を見て、「魔」の字につられたか。

⑥は「独壇(ダン)場」で、61/80。この漢語は「いはく」つきのもの。本来は「独擅(セン)場」である。「擅」は「ほしいまま」の意味で、「壇」は「土で築いた祭壇」である。「独り舞台」ということで誤用したもの。オ「経験則」としたもの10名。要するに言葉が理解できていない。⑦は「疑心暗鬼」。76/80。ほぼ定着している語である。⑧は「五里霧中」。73/80。「経済の行方はまさに()といった状態である。」誤答はウ「呉越同舟」が4名。「行方」から「舟」に結びつけたようである。この四字熟語も書き取りにすると「五里夢中」の誤答が多くなる。

この他、「独壇場」、「未曾有」などは書き取りにするとかなり悲惨な状況になりそうである。

設問 2の2 (漢語の使われ方の理解)

正当率	語	彙
A	②架空 80/80 ③披露 74/80 ⑧心機一転 76/80	⑤快適 80/80 ⑦有頂天 80/80
B	④応酬 51/80 ⑥破天荒 57/80	
C		
D	①思索 24/80	

正しく用いられている漢語を選ぶ設問である。各小問ごと二種類の漢語が用いられている。「思索」を除いてはほぼ定着している。

①は『「思索」にふける』という慣用句的なものが正解。普段から新聞・書物等でなじむべき漢語である。選択肢は「思索」と「因縁」。24/80と悲惨な結果。誤答は44名の者が「……ちょっと思索してみよう」を選び、「思索」を単に「考える」の意でとらえた者が多いことが分かる。また「因縁」を「原因」と混同したエを選んだ者、10名。

②は「架空」と「違和感」という語であるが、80/80で完璧。③「披露」、「結構」。74/80ではほぼ定着。④「応酬」、「較差」。51/80と意外な結果。「……作品に個性的な較差があってよかった」を選んだ者、22名。もしかすると「較差」は読めていないのかもしれない。⑤「快適」、「画期的」はパーフェクト。「快適な空の旅」は耳になじんでいる語なのであろう。⑥「破天荒」、「不祥事」。破天荒を文字通りとらえて、エ「とんだ破天荒の日の出発となってしまった」を選んだ者、23名。理解していない。「不祥事」は定着。⑦「有頂天」、「正念場」。これもパーフェクト。⑧「心機一転」、「金輪際」。76/80でこれもほぼ定着。全般を通して言えるが、四字熟語には強いようである。

設問 2の3 (漢語の選択)

正当率	語	彙		
A	④遊説 67/80	⑧竜頭蛇尾 78/80		
B	②光陰 57/80	⑤登竜門 63/80	⑥温故知新 60/80	⑦呉越同舟 57/80
C	①寒心 43/80	③風聞 47/80		
D				

語の意味を選ぶ設問である。

①は「寒心」で、正答率が悪い。正答43/80で、この語を理解していない者が多いことが分かる。選択肢ア「非常に冷酷で人間味がないこと。」を選んだ者、18名。エ「冷淡で人としての魅力に欠けること。」を選んだ者、18名であった。②は「光陰」。57/80。イ「善と悪。」12名。ウ「性格の裏表。」6名。ア「日なたと日陰。」5名。「光陰矢のごとし」ということわざは定着させたい。③「風聞」。47/80であるが、ア「風のたより」も「風聞」と言い換えられるので、設問として不成立。今回の反省点の一つである。アは21名で、合計68名が正解ということになる。エ「風習やしきたり」とした者、11名。④「遊説」。67/80。イ「遊び半分の真剣さに欠ける意見。」を選んだ者、12名。新聞にしばしば登場する「遊説」を理解していないということは、新聞を読んでいない証左であろう。「遊説」は読みを聞いてみたい漢語でもある。⑤「登竜門」。63/80。ウ「立身出世するための出発点。」を選んだ9名は、ほぼこの漢語を理解していると判断してよい。ただし、「門」の意味合いが分かっていない。⑥「温故知新」。60/80。エ「昔の考え方と新しい考え方の両方を知り、どちらも大事にすること。」を選んだ者、15名。「温故知新」という語を知ってはいるが、正確に意味を押さえていないためである。⑦「呉越同舟」。57/80。ア「仲の良い者も悪い者もみな同じ場所にいること。」を選んだ者、12名。イ「仲の良い者どうしが集まること。」10名。⑧「竜頭蛇尾」。78/80で、ほぼ定着している語。

設問 2の4 (漢語を使った表現)

正当率	語	彙
A	以心伝心 58/80 (△15/80)	四面楚歌 56/80 (△10/80)
B		
C		
D	焦眉 (の急) 3/80 (△1/80) 老婆心 19/80 (△3/80)	雪辱 21/80 (△21/80) 羊頭狗肉 18/80 (△21/80)

*△印は、調査対象者における誤用の人数。

指定された漢語を用いて、20～30字の短文を作る設問。

①「焦眉」は3/80で、ほとんど理解されていない。設問としても「焦眉」だけを挙げたためか。「焦眉の急」まで記すべきであったかもしれない。ただし、そこまで記しても正答率は変わらない可能性がある。「焦」を「あせる」の意に解したものが目立った。この漢語は高校1年生にとっては、「死語」なのであろうか。②「雪辱」はスポーツ紙の活字で見ることが多いので、理解している者は多い。ただし、21/80で、慣用的に誤用していると考えられる。顕著な誤答は、「雪辱を晴らす」と記述した者がなんと51名にのぼった。③「老婆心」。19/80。「老婆心」を「『彼の幼稚な行動に対して、』老婆心がくすぐられた。」のように「やさしい心」の意でとらえた者が多かった。④「以心伝心」。58/80。ほぼ定着しているが、日本語と語順の違う漢語を短文の中に用いることは難しいようである。「『家族なのだから』たとえ離れた場所においても、以心伝心するのは当たり前だろう。」などの例が目立った。⑤「四面楚歌」。56/80。これも④と同様、「『あまりにも自分勝手な彼は、』四面楚歌に色々な人から嫌われている。」などの誤用が多い。意味的にはほぼ理解しているようである。⑥「羊頭狗肉」は、「まさに羊頭狗肉である。」などのように羊頭狗肉自体を意味として、短文の中で用いることはめったにない故事成語なので、正答率も悪かった。

18/80。別の四字熟語にすべきであったかもしれない。意味は分かっていると思われるのに、短文としては不適切なものが、「『こんな商売のやり方では、』さぎのような、羊頭狗肉で、せっかく売っても犯罪になる。」のように21名あった。

漢語のまとめ

大人の間では常識と思われる漢語でも、高校生にとってはなじみのない言葉が多いように思われる。もっとも国語科以外の教科の教員にアンケート風に尋ねた結果であるが、「焦眉の急」などは大人でも知られていないことが判明した。日々、授業をしていて当然知っていると思われる言葉を意外に生徒は知らないという事実には当惑している。たとえば、つい先日も、「とんま」という語を知らない生徒がいることに驚かされた。全般を通して、漢語に関しては、四字熟語はかなり理解している。附属小学校・中学校での教育の成果かもしれない。

また、問題の立て方によって、解答がかなり左右されることも分かった。設問を作る段階で、もう少し時間をかけて吟味すべきであったかもしれない。

設問 2の5 (四字熟語・慣用句の意味の理解)

正当率	語	彙
A	①けりをつける 78/80 ④二枚舌を使う 72/80 ⑦対岸の火事 70/80	③船頭多くして船山に登る 69/80 ⑤立つ瀬がない 77/80 ⑥しのぎを削る 73/80 ⑧歯に衣着せず 66/80
B		
C	②お茶を濁す 33/80	
D		

8問中の7問までが80パーセント以上の正答率となっており、その文意の中に置くのにふさわしい諺・慣用表現を選ぶ能力はほぼ十分と判断される。あわせて、他の選択肢として掲げた諺・慣用表現を補ったのでは、その文意が通らなくなるという判断もできているわけで、①で言えば、「背を向ける」「腰を落ち着かせる」「手ぐすねをひく」などについても、おおむね適切な使い方ができるのではないかと推測される。③についても字面に引かれて「多多益益弁ず」を選ぶケースが多いのではないかと予測していたが、正答率88.2パーセントであった。②「お茶を濁す」だけが低い正答率で、この慣用表現が高校生にとって縁遠いものになっていることが明らかになった。「適当に」という語が、その本来の語意よりも広がっており、「お茶を濁す」という微妙な表現によってかわっている結果とも考えられる。

設問 2の6（四字熟語・慣用句の使われ方の理解）

正当率	語	彙
A	さばを読む 78/80	うつつを抜かす 69/80
B	角が立つ 52/80 取るに足りない 60/80	口裏を合わせる 76/80 これ見よがし 50/80 両刃の剣 51/80
C	けんもほろろ 47/80	
D		

各問につき二つの諺・慣用表現についての認識を試すようになっている。「口裏を合わせる」の正答率が最も高かったのは、現今の世相を反映して、テレビ・ニュースや新聞記事を通じて触れることが多いせいかと考えられる。正答率Bに分類されたもの「角が立つ」「これ見よがし」「両刃の剣」「取るに足りない」も、日常生活の中でよく読んだり聞いたりし、自分でも使っていると思われるものである。この結果を、2-5で8問中7問までがAに分類されるという結果と考え合わせると、この設問の方式が厳しいものであったのかもしれないという可能性が出て来る。今後の調査方式を検討する際に考慮すべきことである。「けんもほろろ」の正答率が低いのは意外な結果で、むしろ「さばを読む」（Aに分類）の方が縁遠いのではないかとこの予測を覆す結果となった。

設問 2の7 (四字熟語・慣用句の選択)

正当率	語彙
A	高嶺の花 74/80 襟を正す 72/80 臍をかむ 65/80 二の足を踏む 66/80 花を持たせる 65/80 白い眼で見る 69/80
B	身も蓋もない 58/80
C	足元を見られる 43/80
D	

2-6に比べると、単純に意味を問う設問で、文意との整合性を考える必要がないせいか、比較的難しい慣用表現を選んだのに、おおむね高い正答率を示した。「高嶺の花」については約92パーセントの正答率で、予測をはるかに上回る好結果だった。生活関連のテレビ・ニュースや新聞記事で、実感をともなった比喩表現として印象に残っているのではないかと考えられる。「襟を正す」も、現今の世相の中で目にし、耳にする機会の多い表現なのであろう。それに対して、「身も蓋もない」(正答率72パーセント)、「足元を見られる」(約53パーセント)の不振は意外であった。ことに「足元を見られる」は、大人の会話では口にされても珍しいことはないのだが、高校生の生活範囲においては、この表現を用いたくなるような局面・状況は少ないのであろうか。あるいは、「弱みにつけ込まれる」などのような表現の方が、高校生にとっては、より身近なものになっているのかもしれない。

設問 2の8 (四字熟語・慣用句の選択)

正当率	語彙
A	②手を焼く 72/80 ④火に油を注ぐ 74/80 ⑤濡れ衣を着せる 72/80
B	①多岐にわたる 56/80 ③焼け石に水 53/80
C	
D	⑥鼻持ちならない 28/80

諺・慣用表現を、こちらの用意した文頭につけて書く文の中で適切に用いるという設問なので、単に諺・慣用表現の意味が分かっている的確に使えるのかという力を試すのに加えて、ある程度、状況や背景を自分で設定する能力も要求される。したがって、正答率は低くなると予測していたが、実際に得られた結果は、総体的にはおおむね良好といえるものだった。②「手を焼く」の文としては、わがままなクラスメートを素材としたものが多く、日常生活の中で実感をもってこの表現を捉えている

ことが窺えた。④「火に油を注ぐ」についても同様の傾向が見えた。⑤については、「濡れ衣を着せ」られた友人を見捨てるという行為を非難するという設定が圧倒的に多く、高校生がどのような行為を「醜・悪」とみなしているかの一端が表れていた。

これに対して、「鼻持ちならない」は、その意味を理解していないと思われる解答が多く、わがままな行為や傍若無人な行為に対する嫌悪感・反撥の表明として用いられている解答が目立った。Bに部類された「焼け石に水」も、やはり意味をわからずに無理に文を作っているケースが多かった。

四字熟語・慣用句のまとめ

四字熟語・慣用句は、個々の単語に関する語彙力とは異なり、その背景に比喩表現や生活実感にもとづく表現などの広がりを持つ。また、それらについての確かな知識を持つことによって、表現したいさまざまな心情や複雑な状況、ニュアンスを、短い言葉で的確に表現できるという、より高度な表現力を身につけることにもつながる。若年層の国語力の低下現象が危機感を持って指摘されている今、「語」のレベルの次なる段階に位置する調査項目として、四字熟語・慣用表現に関する「語彙力調査」を行ってみた。

結果としては、今回の調査対象（本校1学年2クラス）については、正答率Aに区分される項目が、2-5、2-7でそれぞれ8問中7問および6問と、高い率を示した。また、問い方がやや高度な2-6、2-8においても、Aに区分される項目が、2-6で8問中3問、Bに区分されるもの4問、2-8ではAに区分されるものが6問中3問、Bに区分されるものが2問であり、C・Dに区分されるものは、それぞれ1問ずつであった。こうした結果から考えて、今回の調査対象においては、四字熟語・慣用表現についての知識および使用能力（すなわち、「語彙力」）はほぼ良好であると判断できる。

このような結果となった背景には、調査対象となった生徒たちが、幼児期から小・中学校時代、さらに高校入学後にわたる十数年間に、「読むこと・書くこと」の指導を受けて実践経験を積む機会が多かったことと、家庭・学校において社会的な話題に興味・関心を持って「聞くこと・話すこと」、ひいては「調べること」に馴染む機会に恵まれていたことなどがあるのではないかという仮説を立ててみた。今後、継続される調査の結果の推移を検討し、協力校における調査結果との比較検討を考え合わせて、この仮説の妥当性を検証し、さらに、「語彙力」形成に関わる様々な要因とその相関関係を明らかにする一助としてゆく予定である。

国語語彙力検査

1

(小学校)

1 次の①から⑳の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- | | | | | |
|-------|-------|------|-------|------|
| ① 正面 | ② 説明 | ③ 家畜 | ④ 想像 | ⑤ 暗号 |
| ⑥ 対談 | ⑦ 湯治 | ⑧ 速慮 | ⑨ 不満 | ⑩ 環境 |
| ⑪ 無意識 | ⑫ 最年少 | ⑬ 脈 | ⑭ 害毒 | ⑮ 子孫 |
| ⑯ 特産品 | ⑰ 持参 | ⑱ 冷静 | ⑲ 紀行文 | ⑳ 愛用 |
| ㉑ 複写 | ㉒ 恩人 | ㉓ 習慣 | ㉔ 仮定 | ㉕ 往路 |
| ㉖ 弁明 | ㉗ 散策 | ㉘ 早熟 | ㉙ 深刻 | ㉚ 密接 |

2 次の①から⑧の()にはどの語を使ったらよいか、ア～エの中から一つを選び記号で答えなさい。

- ① 手先の器用な彼は、手品師のような仕事に()。
ア ほめる イ むく ウ のびる エ さける
- ② 音楽は人の心を()。
ア なぐさめる イ はびこる ウ たしかめる エ よこぎる
- ③ フォークダンスで手をつないでいる二人を()。
ア さえぎる イ おびやかす ウ ひやかす エ もとめる
- ④ 知っていたのに教えてくれないなんて()。
ア ふさわしい イ にくらしい ウ まぎらわしい エ ほこらしい
- ⑤ 予想もしていなかった質問をされて()。
ア まごつく イ やきつく ウ くらいつく エ ひきつく
- ⑥ 空き地に名も知らぬ草が()。
ア ひろめる イ ふみこむ ウ めぐる エ しげる
- ⑦ かまで伸びた草を()。
ア ほる イ そる ウ かる エ うめる
- ⑧ 迷ったあげくに駅への道を()。
ア たずねる イ たばねる ウ かさねる エ こねる

- ・合図があるまで開いてはいけません。
- ・答えは解答用紙に記入してください。

3 次の①から⑧について、——線部の語が正しく使われているものをア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① ア 雨で遠足の日にちが述べる。
 イ わからないことを先生に述べに行く。
 ウ 筆者の述べていることをノートにまとめる。
- ② エ 困っている人に、みんなが救いの手を述べる。
 ア くじにあたった人をねだる。
 イ おもちゃがほしいとねだる。
 ウ かぜをひいて布団の中でねだる。
 エ 作業をていねいにねだって行く。
- ③ ア 泣いている迷子をなだめる。
 イ たてと横をきれいにそろえてなだめる。
 ウ 悲しい本を読んで心をなだめる。
 エ 書かれている文字をていねいになだめる。
- ④ ア 赤ちゃんが産まれた知らせにうんざりする。
 イ 目の前のたくさんの仕事にうんざりする。
 ウ 長雨があがつて、ようやくうんざりした。
 エ 初めて買った宝くじがはずれてうんざりした。
- ⑤ ア 先生が遠足の下見にまいる。
 イ 毎日続く夏の暑さにまいる。
 ウ 音楽に合わせてひらひらとまいる。
 エ 投げたプーメランが手元にまいる。
- ⑥ ア 寒さの中でも自分の力をかなえる。
 イ 昨日見た夢を今日もかなえる。
 ウ 小さな頃からの夢をかなえる。
 エ みんなで力をかなえて立ち向かう。
- ⑦ ア 今回のテストの結果にはほこりがありそうだ。
 イ 昨日の成績にはほこりが高い。
 ウ ほこり高い学校の伝統を守る。
 エ 思うような結果にならずほこりがくずれる。

-2-

- ⑧ ア 山の頂を目指して歩を進める。
 イ 山の頂からふもとを見上げる。
 ウ この頂をわたればとなりの国だ。
 エ 国王からの頂を部屋にかざる。

4 次の①から⑧の意味を表す言葉をア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 土を取りのぞく動作。
 ア ほる イ さぐる ウ かきわける エ もぐる
- ② ものの姿や形を、絵や図にかく。
 ア うつる イ よける ウ みがく エ えがく
- ③ 相手をほめて、いい気にさせる。
 ア そだてる イ へだてる ウ かりたてる エ おだてる
- ④ うるさい。わずらわしい。
 ア ねがわしい イ うつとうしい ウ いちじるしい エ みすぼらしい
- ⑤ めんどくで手間がかかること。
 ア やっかい イ もんだい ウ ちよっかい エ せっかく
- ⑥ 思うようにはかどらなかつたり、早くしようといらいらする。
 ア さける イ よける ウ ほこる エ あせる
- ⑦ 相手を思いやる温かい気持ち。
 ア きぶん イ なさけ ウ いろけ エ おおやけ
- ⑧ ものぐとのいきおいが一番さかんとき。
 ア とうぐ イ とうげ ウ とうき エ とうもう

-3-

5 次の①から⑥について、「」の言葉を使って10字以上で、文の続きを作りなさい。

(例)「走る」

・ゴールに(向かってけんめいに走った)。

①「おいしい」

この試合は、()

②「うっとり」

美術館で、()

③「見込み」

来週は、()

④「あこがれ」

小さいころ、()

⑤「しおれる」

育てていた()

⑥「ひな」

よちよちと()

-4-

6 次の①から⑧の()にはどの語を使ったらよいか、ア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

① 太郎はぼくの()だ。

ア サバイバル

イ カーニバル

ウ ロイヤル

エ ライバル

② 友だちへのおくり物を()を見て探した。

ア プレゼント

イ カタログ

ウ カウンター

エ ペーパー

③ スポーツでは、()精神が大切だ。

ア グッドプレー

イ ナイスプレー

ウ フェアプレー

エ ファインプレー

④ かわいい()を集めるのが趣味だ。

ア アクシデント

イ アクセサリー

ウ アニバーサリー

エ アクセント

⑤ 新聞の切り抜きを()する。

ア ファイア

イ ファウル

ウ ファイト

エ ファイル

⑥ 今日の会議には、はじめから()がしかれていた。

ア ルーツ

イ ルール

ウ レール

エ レース

⑦ 運動会で、相手のチームに()を送った。

ア エール

イ セール

ウ プール

エ ルール

⑧ カップラーメンのような()

ア コンスタント

イ ドキュメント

ウ インスタント

エ コメント

7 次の①から⑧について、線部の語が正しく使われているものをア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

① ア お兄さんは、ハイキングを背負ってバイクに乗った。

イ 今日の夕食は、ハイキングだ。

ウ ぼくは、ゲームをしてハイキングをとった。

エ 今日は家族で、ハイキングに出かけた。

② ア トラブルにまき込まれ、帰りが遅くなった。

イ 雨が降ったので、トラブルを着た。

ウ お母さんにたのまれ、トラブルを買いに行った。

エ きれいに咲くよう、花に毎日トラブルをかけた。

③ ア 公園にメンバーを持って行って遊んだ。

イ サッカーのメンバーが足りない。

ウ 長年探し続けていたメンバーがあった。

エ おいしそうなメンバーを注文した。

④ ア 袋から出して、おいしそうにメッセージを食べた。

イ 空を見上げたら、メッセージが飛んでいた。

ウ 大好きな先輩からのメッセージを受けとった。

エ すこい早さで、目の前をメッセージが通り過ぎていった。

-5-

⑤ ア 遊園地に行つて、プラットホームで遊んでいた

イ 多くのプラットホームが集まっている地域を見学した。

ウ このプラットホームからは新幹線が発車する。

エ 今度、家に大きなプラットホームを作る予定だ。

⑥ ア かれのランキングはいつも上位だ。

イ 朝早くから家の周りをランキングする。

ウ かれの大好物は、ランキングだ。

エ 一番大きなランキングを手にとつてなでてみた。

⑦ ア 使い終わった油をかためてサンプルにした。

イ 品物のサンプルを並べて見比べた。

ウ かれはゴールに向かつて一人でサンプルしていった。

エ 最後の勝負で、かれはサンプルに出た。

⑧ ア かれはキーワードを取り出して玄關のカギを開けた。

イ 文章の中から一番大切なキーワードをさがします。

ウ あなたが、チームの中のキーワードです。

エ 夕方からキーワードがうるさく鳴き出した。

8 次の①から⑧の意味を表す言葉をア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 人がお互いに気持ちや考えを伝え合うこと。

ア チャット イ ネットワーク

ウ ダイヤル エ コミュニケーション

② 室内のまるい天井に太陽・月・星などの動きを映し出す機械

ア ブラネット イ ミュージアム

ウ プラネタリウム エ スタジアム

③ 人のために力をつくすこと。お店で値引きしたりおまけをつけたりすること。

ア サープ イ サービス ウ サーカス エ チャージ

④ 様々な色のついたガラスを組み合わせて模様や絵などをあらわしたもの。

ア スタンドグラス イ ステンドグラス

ウ サングラス エ ワイングラス

⑤ ジョギングよりも速いペースで走ること。

ア ランナー イ ランニング ウ ラッシュアワー エ ラッピング

⑥ ちょうどよいとき。いい機会。

ア チャンピオン イ チャンス ウ ビンチ エ チェック

⑦ 他の人と比べて自分がおとつていると感じること。

ア コンピナート イ コンピュータ

ウ コンプレックス エ コンピナート

⑧ 人々の心を強く引きつける力の持ち主

ア ガリバー イ カラフル ウ キング エ カリスマ

9 次の①から⑥について、「」の言葉を使って10字以上で、文の続きを作りなさい。

(例) スイッチ

家の(中)に入つて、電気のスイッチを入れた()。

① 「リュックサック」

今日は天気もいいので、()。

② 「エチケット」

家にたたくさんの人が来るので、()。

③ 「レポート」

社会学で、()。

④ 「プログラム」

発表会の()。

⑤ 「ファッション」

彼女は()。

⑥ 「スピーチ」

クラスみんなに()。

国語彙力検査

2

(小学校)

1 次の①から⑧の()にはどの語を使ったらよいか、ア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ① 彼は()のうちに学校へと歩き始めた。
ア 無理解 イ 無差別 ウ 無理 エ 無意識
- ② あの工場は、長年、近くの川に()を流し続けた。
ア 有害 イ 災害 ウ 有毒 エ 害毒
- ③ 旅行の記録をもとに、楽しい()を書く。
ア 論説文 イ 紀行文 ウ 物語文 エ 説明文
- ④ もとの文章はそのままにして、()したものを使いましょう。
ア 複写 イ 参考 ウ 批判 エ 応用
- ⑤ 外国への()は船を使い、帰りは飛行機を使う。
ア 道路 イ 帰路 ウ 往路 エ 往復
- ⑥ 私とあの人は、長い間、()な関係を保っている。
ア 密接 イ 面接 ウ 密度 エ 接着
- ⑦ せっかくのお申し出なのですが、今回は()します。
ア 否認 イ 近所 ウ 断絶 エ 遠慮
- ⑧ 当日が雨だと()すると、どんな準備をしておいたらよいか。
ア 確定 イ 仮定 ウ 仮説 エ 定義

2 次の①から⑧について、——線部の語が正しく使われているものをア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① ア 友達の日記を読んで、できごとを想像する。
イ 昨日、私の食べたものを想像できました。
ウ あのお寺には、りっぱな想像がある。
エ 杉の木をみただので、本だなを想像する。
- ② ア 山の中は、とても冷静だった。
イ 冬のある朝、冷静な空気に身ぶるいする。
ウ 今日、一日中、冷静な雨が降り続く。
エ 彼は、どんな時でも冷静な態度だ。

・合図があるまで開いてはいけません。
・答えは解答用紙に記入してください。

- ③ ア さいころは、六つの几帳面からできている。
 イ 先生は真面目で、几帳面な性格だ。
 ウ 彼女の顔は、どちらかといえば几帳面だ。
 エ 話を聞いて、気づいたことを几帳面の中に書く。
- ④ ア おばあさんは、白い子犬を愛用している。
 イ 彼の愛用していることは、読書と旅行だ。
 ウ 家族で一番大切なことは、たがいに愛用することだ。
 エ この万年筆は、私の愛用しているものだ。
- ⑤ ア 桜の花びらが、すっかりと散策してしまつた。
 イ 旅行の計画をあれこれと散策する。
 ウ もし雨だつた場合の散策を考えておく。
 エ 知らない街を散策するのは楽しい。
- ⑥ ア 早熟の老人に話しかけられた。
 イ 彼は走る練習をして、早熟になつた。
 ウ 早熟の人が、人生で成功するとは限らない。
 エ 早熟の卵を父は大好きだつた。
- ⑦ ア 庭の松の木に、自分の名前を深刻する。
 イ 深刻な問題に頭をなやます。
 ウ 時間をかけて、考えを深刻する。
 エ その老人の顔には深刻なしわがよく目立つ。
- ⑧ ア 彼は自分の趣味を楽しく弁明した。
 イ あの先生の算数の弁明は、とてもわかりやすい。
 ウ 彼は明るく弁明な性格だ。
 エ 弁明をくり返す姿は見苦しい。

3 次の①から⑧の意味を表す言葉をア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 人間の生活に役立たせる目的で飼育される動物
 ア 小動物 イ 家畜 ウ 猛獣 エ 畜産

-2-

- ② 周りを取りまく状態や世界
 ア 世間 イ 集団 ウ 環境 エ 周囲
- ③ 長い間くり返しているうちに、そうすることがまじりのようになったこと
 ア 規則 イ 法律 ウ 憲法 エ 習慣
- ④ あることがらについて二人で話し合うこと
 ア 説明 イ 談話 ウ 討論 エ 対談
- ⑤ 一定の内容を表すために用いられるしるし
 ア 記号 イ 印章 ウ 表札 エ 規則
- ⑥ 動物の体内で血液が流れる鼓動
 ア 筋 イ 骨 ウ 皮 エ 脈
- ⑦ 情けをかけ、力になつてくれた人
 ア 他人 イ 恩人 ウ 客人 エ 知人
- ⑧ 一つの血統を受け継いで生まれてきた人たち
 ア 伝統 イ 先祖 ウ 子孫 エ 乳児
- 4 次の①から⑥について、「」の言葉を使って10字以上で、文の続きを作りなさい。
- (例) 「学校」
 今日、() かぜをひいて学校を休んだ ()。
- ① 「正面」
 友達と () ()。
- ② 「説明」
 国語の授業で、() ()。
- ③ 「不満」
 家族で食事に出かけ、() ()。
- ④ 「最年少」
 オリンピックで、() ()。
- ⑤ 「特産」
 九州に旅行に行き、() ()。

-3-

- ⑧
- ア 自分のよいところをほめられ、耳が痛い。
 - イ 友達のよいところを言われ、耳が痛い。
 - ウ 友達のよいところをほめられ、耳が痛い。
 - エ 自分のよいところを言われ、耳が痛い。

7 次の①から⑧の意味を表す言葉を選び、記号で答えなさい。

- ① 上手な人でも失敗することがある。
- ア 猿も木から落ちる
 - ウ 弘法筆を選ばず
- ② どれも似たりよったりで、かわりばえしないこと
- ア 亀の甲より年の功
 - ウ のれんに腕おし
- ③ よくないことが重なること。
- ア 虻蜂とらず
 - ウ 月とすっぽん
- ④ 立ち去るものは後が見苦しくないようによく始末をするべきだ。
- ア 旅の恥はかきすて
 - ウ 立つ鳥跡をにごさず
- ⑤ ありがたさや値打ちが分らないこと。
- ア 一寸の虫にも五分の魂
 - ウ 鬼に金棒
- ⑥ ひどく感心すること。
- ア 舌を巻く
 - ウ 手を巻く
- ⑦ 必要な手段を講じる。取り引きで合意する。
- ア 手を握る
 - ウ 手に余る

-6-

- 8 次の①から⑥について、「」の言葉を使って10字以上で、文の続きを作りなさい。
- ⑧ 行動などの程度がひどすぎて、だまってみていられない。
- ア 手を回す
 - ウ 手に余る

(例) 「目からうろこがおちる」

先生の話を聞いて、() 目からうろこがおちた思いだった。()

- ① 「息を殺す」
- わたしは、() ()
- ② 「味をしめる」
- テストで() ()
- ③ 「板に付く」
- かれの() ()
- ④ 「のどから手が出るほど」
- 店で見つけた() ()
- ⑤ 「猫の手も借りたいほど」
- 仕事が() ()
- ⑥ 「足が棒になる」
- 遠足で() ()

-7-

国語語彙力検査

1

(中学校)

1 次の①から③④の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| ① 威厳 | ② 恩恵 | ③ 過失 | ④ 寛容 | ⑤ 救済 | ⑥ 安泰 |
| ⑦ 共存 | ⑧ 規律 | ⑨ 迎合 | ⑩ 軽率 | ⑪ 敬服 | ⑫ 激励 |
| ⑬ 欠如 | ⑭ 謙虚 | ⑮ 賢明 | ⑯ 呼应 | ⑰ 資質 | ⑱ 支障 |
| ⑲ 執着 | ⑳ 承諾 | ㉑ 情緒 | ㉒ 遂行 | ㉓ 静寂 | ㉔ 搜索 |
| ㉕ 超越 | ㉖ 体裁 | ㉗ 把握 | ㉘ 変遷 | ㉙ 明朗 | ㉚ 余暇 |

2 次の①から⑧の()内を補うのに最も適切な語をア～エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

- ① 古都の()ある風景に出会う。
ア たしなみ イ おもむき ウ もくろみ エ きらめき
- ② 風()五月。
ア くゆる イ もとる ウ なびく エ かおる
- ③ ()に思い続ける。
ア とほう イ こまめ ウ いちず エ ずほら
- ④ 一日たりとも、練習を()にしてはならない。
ア のびやか イ こまやか ウ はれやか エ おろそか
- ⑤ 投げたボールは全く()の方向に行ってしまった。
ア あべこべ イ どっちみち ウ あちこち エ そっちのけ
- ⑥ はつきりわからなかったので()な言い方ですませてしまった。
ア ものぐさ イ ものおじ ウ ひやかし エ うやむや
- ⑦ 幼い頃のこと、()記憶しかない。
ア はるかな イ おぼろな ウ そろろな エ たわわな
- ⑧ 心が()ような思いだった。
ア おりなす イ ありつく ウ とりなす エ いてつく

・合図があるまで開いてはいけません。
・答えは解答用紙に記入してください。

3 次の①から⑧の傍線部の語が正しく使われているものをア～エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

- ① ア 彼の心中は察するにあまりある。 イ 百人あまりな出席者がいた。
 ウ あまりある寒さに耐えきれなかった。 エ あんまりな高い評価をもらった。
 ア これはたしなめた覚えのある味だ。 イ 彼女は言動にたしなめがない。
 ウ 少しは行動をたしなんだほうがよい。 エ 先輩から言動をたしなめられた。
 ア これはかたくなな物質だ。 イ ほくはかたくなに沈黙を守った。
 ウ とてもかたくなるしい物体を見た。 エ そこにかたくなのものがある。
 ア 彼に会うことはかるうじてできなかった。 イ からくも作品の出来は悪かった
 ウ かるうじて目的地に達した。
 エ やってしまったことはからくもまずかった。
 ア ゴールめがけてひたすらに走った。 イ 彼はひたすらな成果をあげた。
 ウ バスはひたむきな方向に走った。 エ ほくの心はもうひたむいている。
 ア その決定はほのかだった。 イ ほのめかした装飾がされていた。
 ウ 大空に旗がほのめく。
 エ 行く先にほのかな明かりが見えた。
 ア 楽しみな演奏会にいやおうなく参加した。 イ やるかたなく合格できた。
 ウ その場所にいやおうなしに行かされた。 エ 優勝できてやるかたない気持ちだ。
 ア 去年くわだてた木はよく育っている。 イ もくろんだようにいい天気になった。
 ウ 地球の自転はもくろまれたことだ。 エ 事業のくわだては成功している。

-2-

4 次の①から⑧の内容を表すのに最も適切な語をア～エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

- ① 事の成り行き。 ア 日がな イ 日のべ ウ 日だし エ 日より
 ア 悲しみなどを紛らわすすべがなくて、せつない。 イ やるせない イ よんどころない ウ せんない エ 奇る辺ない
 ア すべて残らず。 イ 洗いがらい ウ かけねなく エ とりもなおさず
 ア 人柄。 イ 人となり ウ 人でなし エ 人ごち
 ア 人となり イ 人いきれ
 ⑤ 言い争い。けんか。 ウ さかなで エ いさかい
 ア さかしら イ 取りざた
 ⑥ ほかに代えることのできない大切な様。 ウ そっけない エ やるかたない
 ア いたしかたない イ かけがえのない
 ⑦ 短い間隔で次々とすばやく続ける様子。 ウ たたみかけ エ 取りいそぎ
 ア 目白おし イ 矢つぎばや
 ⑧ さっぱりとあか抜けている様子。 エ たおやめぶり
 ア あつぱれ イ いき ウ わび

-3-

- 54 -

5 次の①から⑥について、「」の語を使って15字から30字で文の続きを作りなさい。

- ① 「おもむく」 きまみに ()
 ② 「かんばしい」 今回の成績は ()
 ③ 「うるおう」 干ばつも心配されたが ()
 ④ 「うれしい」 彼女は ()

⑤ 「ことごとく」

(この試合では)

⑥ 「まいごく」

急な

6 次の①から⑧の()内を補うのに最も適切な語をア～エの中から一つ選び、符号

で答えよ。

① 彼はアイデア豊かで()な発想を持っている。

ア ブラック イ ユニーク ウ ホワイト エ ユーモア

② 情景をできるだけ()に表現する。

ア リアル イ タブー ウ エット エ ラディカル

③ 自分の()をはっきりさせることが大事である。

ア エゴ イ ユーモア ウ パーソナル エ スタンス

④ 大統領は放送()を操っている。

ア キャスト イ メディア ウ オーバー エ メカニズム

⑤ 彼は()な提案しかしない。

ア リアル イ タブー ウ エゴ エ オードックス

⑥ 彼女の()はいつも身近な出来事が書かれているので面白い。

ア ジレンマ イ ワープロ ウ エッセイ エ エッセンス

⑦ 新幹線の動力装置の()を研究する。

ア マシン イ ポイント ウ アクセス エ メカニズム

⑧ 彼の発想はいつも()なので危険な場合もある。

ア メカニズム イ ブラック ウ ラディカル エ サークル

7 次の①から⑧の傍線部の外来語が正しく用いられているものをア～エの中から一つ選
び、符号で答えなさい。

① ア 彼にはイデオロギーが備わっている。

イ 微妙なストレスの違いがある。

ウ 彼は強烈なコンセンサスを持っている。

エ ○○ホテルは空港までのアクセスが便利だ。

② ア 新幹線はビジョンの上を走っている。

イ ノート型パソコンのシェアはわが社が一番だ。

ウ 車に乗る時は適切なフィードバックが必要である。

エ 買い物をするとき多くのエチケットを受けることができる。

③ ア 消費者のニーズに 대응することが大切だ。

イ 君と僕とはレトリックだね。

ウ 目をつむっていると強いインパクトがひらめいた。

エ 商品はパラドックスが豊富なのがよい。

④ ア 彼は自分のことしか考えないエゴイストだ。

イ 彼は人間的事業に魅力がある。

ウ 情報化社会を生き抜くためには、メンテナンスが必要だ。

エ この問題について、皆さんのカウンセリングを聞かせてください。

⑤ ア 彼には人間的なデリバリーがある。

イ 彼は実にユーモアのある人物だ。

ウ 彼女のパラドックスは実に魅力的だ。

エ 彼女のイデオロギーは今紛失中である。

⑥ ア 紙面のレイアウトを早く決めなければならない。

イ 本のレスポンスを早く見たいものだ。

ウ ノートがなくなったのでリターンして書き直した。

⑦ ア このビデオはケーススタディが大切だね。

イ テレビの良さはバリエーション次第だね。

ウ ラジオのコンセプトは押さない方がいいよ。

エ 長持ちの秘訣は毎年のメンテナンスだよ。

- ⑧ ア イベント会場には人がいっぱいだ。
 イ テクノロジーの核心は中央会場だ。
 ウ 映画館にユートピアは禁物だ。
 エ ホテルのフロンティアで待ち合わせをした。

8 次の内容を表すのに適切なものをア～エの中から運び、符号で答えなさい。

- ① 触れたり口に出したりしてはならないとされるもの。
 ア エゴ イ タブー ウ ナーバス エ フェミニズム
- ② 自由主義的。自由主義者。
 ア エコロジー イ エコノミスト ウ リベラル エ グローバル
- ③ 結果に含まれる情報を原因に反映させ、調節を図ること。
 ア レコード イ ロジック ウ イニシアチブ エ フィードバック
- ④ 物事の過程。経過。
 ア プロセス イ ロード ウ アクセス エ インターネット
- ⑤ 利己主義者。
 ア フェミニスト イ ヒューマニスト ウ エゴイスト エ エコロジスト
- ⑥ 率先して行動し、物事がある方向へ導く力
 ア イニシアチブ イ オンブズマン ウ ユニバース エ パワーアクション
- ⑦ ねうち。価値。
 ア マナー イ バリユー ウ ビイジー エ シリアス
- ⑧ 新入生や新入社員に対する説明・教育。
 ア オリエンタル イ オリエンテーション
 ウ オリエンテーリング エ エデュケーション

9 次の①から⑥について、「」の語を使って15字から30字で文の続きを作りなさい。

- ① 「ジレンマ」
 双方の意見を聞くと、（ ）。

- ② 「ジャンル」
 夏目漱石の「こころ」は、（ ）。
- ③ 「メンテナンス」
 新築した家も、（ ）。
- ④ 「コンプレックス」
 友人のS君は、（ ）。
- ⑤ 「リストク」
 商品の開発においては、（ ）。
- ⑥ 「ジャーナリズム」
 選挙においては、（ ）。

国語彙力検査

2

(中学校)

1 次の①から⑧の内に補うのに最も適切な語をア～エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

- ① 集団生活においては、() がある行動をとるべきだ。
ア 規則 イ 規律 ウ 規範 エ 秩序
- ② 食べ物は時代と共に()する。
ア 変動 イ 変異 ウ 変遷 エ 変転
- ③ 与えられた任務を()する。
ア 強行 イ 遂行 ウ 成功 エ 成就
- ④ 責任感が()している。
ア 脱落 イ 忘却 ウ 失念 エ 欠如
- ⑤ ()が不安定である。
ア 感覚 イ 感情 ウ 心情 エ 情緒
- ⑥ 先生の()を得て校外に出る。
ア 承諾 イ 承知 ウ 承認 エ 合点
- ⑦ 金もうけに()する。
ア 願望 イ 執念 ウ 執着 エ 所望
- ⑧ 仕事の()を生かす。
ア 休憩 イ 寸暇 ウ 余暇 エ 間隔

2 次の①から⑧の傍線部の漢字が正しく用いられているものをア～エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

- ① ア 教室には閑静な沈黙が広がっていた。
イ 静寂を破つて赤ちゃんの泣き声が聞こえた。
ウ 夜の静寂を破つて汽笛が鳴った。
エ 都会の騒然を避けて田舎に移り住む。
- ② ア 権力のある学説をくつがえす。
イ 社長としての威力を傷つけられる。
ウ あの人態度にはどことなく威厳が備わっている。
エ 国の貴禄にかかわる事件だ。

- ・ 合図があるまで開いてはいけません。
- ・ 答えは解答用紙に記入してください。

- ③ ア 歌って笑って、みんなで陽性に騒ぐ。
 イ 同好会の会計は明朗である。
 ウ 外交的な性格に、まわりの友人も多い。
- ④ エ 子犬の動きは快活ですばやい。
 ア 君に注意するのは愛想からだ。
 イ 今なら入会金無料の温情を受けられる。
 ウ 人に好意を与える服装をしている。
 エ 大自然の恩恵を受ける。
 ア 怪我人を救命する。
 イ 被災者に救助物資を配る。
 ウ 失業者を救済する措置をとる。
 エ 救援車で病院へ運ぶ。
- ⑤ ア 国家が安泰になる。
 イ 心の安全を求める。
 ウ 毎日を和平に暮らす。
 エ 海は波もなく平静である。
 ア なくした傘を物色する。
 イ 読みたい本をカードで検索する。
 ウ 行方不明者の捜索を行う。
 エ 自分に合う洋服を探索する。
- ⑧ ア 超過サービスだと批判される。
 イ 光栄への道のりは険しい。
 ウ 相手に対して優等感をもつ。
 エ 利害を超越した行為だ。

-2-

3 次の①から⑧の内容を表す最も適切な語句をア、イ、ウの中から一つ選び、符号で答えなさい。

- ① 生まれつきの性格や才能。
 ア 才覚 イ 資質 ウ 本性 エ 性格
- ② うやまい従う。感心してうやまう。
 ア 恐縮する イ 思慕する ウ 崇拜する エ 敬服する
- ③ 他人の意向に合うようにする。
 ア 世辞を言う イ 迎合する ウ 機嫌をとる エ 歓心を買う
- ④ 自分の状態について、他人が見たときの感じ。
 ア 面目 イ 肩身 ウ 体裁 エ 見栄
- ⑤ ひかえめで素直なこと。
 ア 丁重 イ 遠慮 ウ 礼儀 エ 謙虚
- ⑥ 人を許し受け入れること。
 ア 柔軟 イ 寛容 ウ 甘受 エ 勘弁
- ⑦ 不注意の結果犯した失敗
 ア 過失 イ 失態 ウ 不覚 エ 悪事
- ⑧ お互いに意志を通じ合う。
 ア 提携する イ 協力する ウ 呼応する エ 精通する

4 次の①から④について、「」の語を使って15字から30字で文の続きを作りなさい。

- ① 「支障」
 台風が来たために、()。
- ② 「軽率」
 知らない人から声をかけられても、()。
- ③ 「共存」
 人が野生動物に襲われる被害が続き、()。
- ④ 「把握」
 事故現場の、()。

-3-

⑤「賢明」

そんな無理な登山計画は、

）。

⑥「激励」

オリンピックを来月に控え、

）。

5 次の①から⑧の（ ）内に補うのに最も適切な語をア～エの中から一つ選び、符号

で選びなさい。

① チーム全員が僕を嫌っていて、まさに（ ）の状態なんだ。

ア 一網打尽 イ 一石二鳥 ウ 四角八方 エ 四面楚歌

② ある一つの王朝が絶頂を維持することはない。この世は（ ）である。

ア 一念発起 イ 栄枯盛衰 ウ 色即是空 エ 未来永劫

③ （ ）だけど、僕のつくった料理は美味しいよ。

ア 餅は餅屋 イ 手前みそ ウ 米百俵 エ 腐っても鯛

④ につちもさつちもいかず、（ ）の状態だ。

ア のれんに腕押し イ 猫に小判 ウ 八方ふさがり エ 墓が立っている

⑤ 二人の泥棒を一度に捕まえようとしたんだけど逃げられて、結局（ ）になった。

ア 木を見て森を見ず イ ローマは一日にしてならず

ウ 我が心石にあらず エ あぶはちとらず

⑥ （ ）噂をたてられた。

ア 食えない イ 根も葉もない ウ 目が高い エ 手が長い

⑦ （ ）ように、慎重にこの計画を実施しなくてはならない。

ア かみそりの刃を渡る イ 三つ子に習って浅瀬を渡る

ウ 危ない橋を渡る エ 石橋をたたいて渡る

⑧ （ ）のだよ、間もなく何かが起こると思う。

ア 虫が知らせる イ 背は腹に代えられぬ

ウ 犬も歩けば棒に当たる エ 一を聞いて十を知る

6 次の①から⑧の語句が正しく用いられているものをア～エの中から一つ選び、符号で

答えなさい。

①「一朝一夕」

ア ご飯は一朝一夕、しっかり食べよう。

イ 成績は一朝一夕に上がるものではない。

ウ 一日一善、一朝一夕には必ず行いたい。

エ 一朝一夕でようやく仕事が終わった。

②「さじを投げる」

ア さじを投げると、ポチャンという音が一面に響いた。

イ あきらめず、最後までさじを投げるようにしたい。

ウ 場所が確保できて、ようやくさじを投げる事ができた。

エ 問題が難しすぎて、結局さじを投げる事になった。

③「すみに置けない」

ア あの美人をものにするなんて、あなたもすみに置けないですね。

イ これほど邪魔になる荷物はすみに置けない。

ウ すみに置けない動物といえるのは、ライオンである。

エ 整理整頓の得意な彼だから、やはりすみに置けない人というのがふさわしい。

④「取りつく鳥もない」

ア 取りつく鳥もないほど、周りは見通しがきいていた。

イ 地球上は大陸が多くを占めており、取りつく鳥もない。

ウ ちようどよく、助けてもらえた。これぞ、まさしく取りつく鳥もないである。

エ 思いきって声をかけたのに、返事は取りつく鳥もない一言だった。

⑤「ねこをかぶる」

ア 今日の観客は子どもが多いからねこをかぶることにしよう。

イ 危険な状況と判断したから、僕はねこをかぶることにした。

ウ 彼は大抵うるさいのに、先生の前ではいつもねこをかぶる。

エ ねこをかぶるとやっぱり、寒さを防ぐことができる。

⑥「ぬかに釘」

- ア あの人に説教しても、ぬかに釘だ。
- イ あの人に愛情をそそげば、ぬかに釘だ。
- ウ あの人に不満を感じても、ぬかに釘だ。
- エ あの人を好きになっても、ぬかに釘だ。

⑦「無用の長物」

- ア 全ての生物は、お互いを助け合う無用の長物である。
- イ 立派で仕事のできる社長は、さすが無用の長物だなあ。
- ウ あんなに役立たずの店長なんて、無用の長物ですよ。
- エ 赤ん坊にとって、ミルクは無用の長物である。

⑧「怪我の功名」

- ア 道に迷って、知らぬ間に目的地についていたなんて、怪我の功名でしたね。
- イ 買い物にいったって、荷物も財布もなくしたなんて、怪我の功名でしたね。
- ウ 旅行にいったって、スリを捕まえて褒められたなんて、怪我の功名でしたね。
- エ 運動をしいって、苦戦しながらも勝ったなんて、怪我の功名でしたね。

7 次の①から⑧の内容を表す最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

① 情けは人のためならず

- ア 情けは人のためにならないから、かけないほうがよい。
- イ 情けは人のためではなく、自分のためにかけるものである。
- ウ 情けは人のためにかけるのであって、自分のためにかけるものではない。
- エ 情けは人のためにならないし、自分のためにもならない。

② 空前絶後

- ア 空前には何も存在していないこと。
- イ 空前の前と絶景の後方。
- ウ 今までに例がなく、これからもありえないようなこと。
- エ この世のものとは思えない、超越しているもの。

-6-

③ 気が置けない

- ア 油断のならないこと。
- イ 抜け目がないこと。
- ウ あなどりがたいこと。
- エ 気遣いする必要がないこと。

④ 一目置く

- ア ちらつとみること。 イ ウィンクすること。
- ウ 一歩ゆずること。 エ さげすむこと。

⑤ 背水の陣

- ア 後方に水を流した陣地。
- イ 必死の覚悟で事に当たること。
- ウ 決して破ることのできない陣地。
- エ どうすることもできずあきらめること

⑥ 筆が立つ

- ア 字がうまい。 イ 文章がうまい。
- ウ 筆の毛先が美しい。 エ 筆づかいがはなやか。

⑦ 過ぎたるは及ばざるがごとし

- ア 何事もやりすぎがよい。
- イ 何事もやりすぎはよくない。
- ウ 何事もほどほどがよい。
- エ 何事もほどほどはよくない。

⑧ 光陰矢のごとし

- ア 光と影はまるで矢のように美しい。
- イ 光の速さは矢に勝るとも劣らない。
- ウ 時間が過ぎるのは時と場合で速さが変わる。
- エ 時間が過ぎるのは本当にはやい。

-7-

8 次の①から⑧について、「」の語句を使って15字から30字で文の続きを作りなさい。

【例】「五里霧中」

今後のペナントレースについては（先がまったくよめず、五里霧中である）。

①「七転八起」

たとえ失敗しても（

②「あとの祭り」

自分の失敗を（

③「板につく」

練習したかいあって（

④「たかをくくる」

安易な気持ちで（

⑤「頭角をあらわす」

彼は最近（

⑥「異口同音」

誰に聞いても（

。

。

。

。

。

。

国語彙力検査

1

(高等学校)

1 次の①から⑳の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 寒心
- ② 完璧
- ③ 屈指
- ④ 啓蒙
- ⑤ 光陰
- ⑥ 失脚
- ⑦ 指南
- ⑧ 焦眉
- ⑨ 推敲
- ⑩ 寸暇
- ⑪ 星霜
- ⑫ 雪辱
- ⑬ 蛇足
- ⑭ 風聞
- ⑮ 矛盾
- ⑯ 遊説
- ⑰ 連座
- ⑱ 登竜門
- ⑲ 独壇場
- ⑳ 破天荒
- ㉑ 未曾有
- ㉒ 老婆心
- ㉓ 以心伝心
- ㉔ 温故知新
- ㉕ 疑心暗鬼
- ㉖ 呉越同舟
- ㉗ 五里霧中
- ㉘ 四面楚歌
- ㉙ 羊頭狗肉
- ㉚ 竜頭蛇尾

2 次の①から⑧の()内に補うのに最も適切な語をア、イ、エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

- ① 本人がいやだということを()ことはできない。
ア おもんばかり イ あらだてる ウ うそぶく エ しいる
- ② 彼の話に矛盾を感じたのか、父親は()ような表情を見せた。
ア さきがける イ いぶかる ウ つまぐる エ むずかる
- ③ 一人で買い物に行かせるのはまだ()。
ア 心もとない イ 心やすい ウ 心にくい エ 心ない
- ④ 友人が懸命に言っているにもかかわらず、()返事しかしない。
ア ざつくばらんな イ ふしだらな ウ なおざりな エ さかしらな
- ⑤ あまりにも気の毒を見るに()。
ア あじけない イ いなめない ウ ぎごちない エ しのびない
- ⑥ 思ったとおりになったので、彼は()であった。
ア したり顔 イ えびす顔 ウ 涼しい顔 エ 浮かぬ顔
- ⑦ 不遇を()。
ア ぶちまける イ こまねく ウ わずらう エ かこつ
- ⑧ 発展するためには、欠点を改めるに()でない。
ア きもいり イ つきなみ ウ やぶさか エ やみくも

・合図があるまで開いてはいけません。
・答えは解答题紙に記入してください。

3 次の①から⑧について、傍線部の語が正しく使われているものをア～エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

- ① ア 自分にとって不利な条件だが、あえて挑戦する。
 イ 勉強が好きなので、あえて進学を切望している。
 ウ あえて仕事に励んでいれば、いつかは実を結ぶ。
 エ いつも彼の話は、あえて作り事に聞こえる。
- ② ア その秘密はとうとうあからさまになった。
 イ あからさまな性格が皆の心を和ませた。
 ウ 彼はあからさまに不快な表情を見せた。
 エ 犬はあからさまな苦しみようであった。
- ③ ア この目標だけはおしなべて達成させたい。
 イ 野菜は去年とおしなべてよく売れている。
 ウ 今年の作物はおしなべて出来がよい。
 エ おしなべて判断すればうまくいく。
- ④ ア 彼の思惑に感動して弟子となった。
 イ 思惑通りにことが進むわけではない。
 ウ 困難にぶつかっても思惑を抱く必要はない。
 エ いくら思惑が豊でも行動力が不足している。
- ⑤ ア くまなく対応することが重要だ。
 イ 私は茶道をくまなく愛している。
 ウ 返事をくまなくよこさない。
 エ その地域はくまなく調査した。
- ⑥ ア うらぶれた身なりで町をさまよう。
 イ うらぶれた国々の取材に出かけた。
 ウ うらぶれた海岸が目の前に続いている。
 エ うらぶれた発言をするのはふまじめだ。
- ⑦ ア 語学の勉強は根回しをきちんとすることが肝心だ。
 イ この件は関係者に根回しをきちんとしておこう。
 ウ よく話し合っ互いに根回しをしてから決めよう。
 エ この作業は複雑なので根回しを整える必要がある。

-2-

4 次の①から⑧の言葉の意味として最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

⑧ ア いたたまれなくなって思わず拍手を送った。
 イ あまりの暴言にいたたまれない気持ちになった。
 ウ 子どもまで傷つけるとは絶対にいたたまれない。
 エ 彼の話はとてもおもしろく、いたたまれなかった。

- ① とみに
 ア 急に イ 特に ウ 次第に エ さかんに
 ② つとに
 ア とりあえず イ 以前から ウ そつと エ 当然
 ③ うなぎのぼり
 ア 見る見るうちに上昇すること イ ゆったりと上昇すること
 ウ 不規則に上昇すること エ 上昇したり下降したりすること
 ④ 老舗
 ア 昔ながらの店構えを維持している店 イ 先祖代々から続いて繁盛している店
 ウ 現在もつとも繁盛している店 エ かつては有名で繁盛した店
 ⑤ 耳ざわり
 ア 聞いたときに受ける感じのこと イ 聞いたときに強く感じる音のこと
 ウ 聞いていていやな感じがすること エ 聞いていてやわらかな感じがすること
 ⑥ やつす
 ア ほっそりした外見になる イ 美しい服装に変える
 ウ 病人らしい様子になる エ めだたない姿に変える
 ⑦ うがつ
 ア 人の言動に対して意地の悪い見方をする事
 イ あらゆる可能性を考慮して結論を出すこと
 ウ 物事の真相や機微にふれて言い表すこと
 エ 喜怒哀楽の感情をあらわに表現すること

-3-

⑧ さいなむ

ア 慰める イ 責める ウ 確かめる エ はずかしめる

5 次の①から⑥について、「」の語を使って15字から30字で文の続きを作りなさい。

(活用させて可)

① 「おぼつかない」

彼は、()

② 「たしなみ」

私は、()

③ 「こよなく」

父は、()

④ 「たそがれ」

やがて、()

⑤ 「ゆゆしい」

最近、()

⑥ 「値する」

この行為は、()

6 次の①から⑧の()内を補うのに最も適切な語をア～エの中から一つ選び符号で答えなさい。

① 地域住民の()を得てからでないと、改修工事を始めることはできない。

ア フォロー イ サンプル ウ コンセンサス エ シフト

② 将来の日本のありかたについて明確な()を持った政治家が必要だ。

ア スタイル イ ビジョン ウ イベント エ オンライン

③ テレビに映し出された山々を見ているうちに、彼は()を感じた。

ア ノスタルジー イ コミュニティー ウ セーフティー エ ベンチャー

④ ゴミ問題は()の視点から解決策を見出すべきである。

ア セキュリティー イ エコロジー ウ デリバリー エ リアリティ

-4-

⑤ 多くの賛成意見が述べられた後で()な考えを表明することは難しい。

ア クリーン イ ランダム ウ ミドル エ ネガティブ

⑥ 村おこしのために、大きな()が開催されることになった。

ア テーマパーク イ フロンティア ウ イベント エ ファッション

⑦ 主人公をどんな深刻な()に置くかが、ドラマを作るうえで問題となる。

ア シチュエーション イ ヴァリエーション
ウ ミッション エ インフレーション

⑧ 毎日、仕事ばかりでは()がたまる一方だから、たまには息抜きもしようよ。

ア ケア イ ストレス ウ シェア エ パフォーマンス

7 次の①から⑧について傍線部の外来語が正しく用いられているものをア～エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

① ア 今日の会議のジャンルは何ですか？

イ 鉄道ファンなら必ず欲しがるアイテムだ。

ウ ゴミは燃える物と燃えない物、レンタルできる物に分けて捨ててください。

エ 熱心な人は会社を休んでまでアカウンタビリティ活動に取り組む。

② ア イテオロギーの違いから、世界を二分する冷戦状態が生まれた。

イ クラスのみんなが参加できるリハビリテーションを企画しよう。

ウ ただいま新製品のオリジナルを無料でお配りしています。

エ 職場では彼のコンプレックスが発揮されているとの評判だ。

③ ア 病院のキャリア一同、手術の成功を祈っている。

イ 彼はプライムタイムの職には就かず、アルバイトとして働いている。

ウ これからの社会にはジェンダーにとられない視点が求められる。

エ 路上でスタンスをしている大道芸人に盛んな拍手が起った。

④ ア この時間帯は通勤ラッシュのシリラスだね。

イ ストイック状態を楽しんで、いつまでも大人にならない大学生が多い。

ウ 欠陥商品の原因は、その企業のトラウマにある。

エ 彼女はよく考えもせずに、インスピレーションで行動するようだ。

-5-

国語彙力検査

2

(高等学校)

1 次の①から⑧の()内を補うのにもっとも適切なものをア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 彼はプロ野球界()の好投手である。
ア 全体 イ 共通 ウ 屈指 エ 寒心 オ 星霜
- ② 汚職事件に()して逮捕される。
ア 指南 イ 特筆 ウ 連座 エ 接続 オ 矛盾
- ③ ()を惜しんで研究する。
ア 金銭 イ 努力 ウ 風聞 エ 故人 オ 寸暇
- ④ 与えられた仕事を()に仕上げる。
ア 完璧 イ 怠惰 ウ 微妙 エ 未然 オ 渾沌
- ⑤ ()の経済恐慌が起こる。
ア 間一髪 イ 断末魔 ウ 金字塔 エ 画期的 オ 未曾有
- ⑥ この分野に関しては彼の()である。
ア 独擅場 イ 未分化 ウ 登竜門 エ 序破急 オ 経験則
- ⑦ 彼の嘘によって、皆()となってしまう。
ア 天変地異 イ 無知蒙昧 ウ 疑心暗鬼
- ⑧ 経済の行方はまさに()といった状態である。
ア 疲勞困憊 イ 五里霧中 ウ 異越同舟
エ 臨機応変 オ 二東三文

2 次の①から⑧について、傍線部の漢語が正しく用いられているものをア、イ、ウの中から一つ選び、符号で答えなさい。

- ① ア どちらの方法が良いか、ちよつと思索してみよう。
イ 父は、よく森を散歩しながら思索にふけていた。
ウ さなぎが蝶になるまでの因縁関係を説明する。
エ 不規則な生活は、健康を害する因縁となりやすい。

・合図があるまで開いてはいけません。
・答えは解答用紙に記入してください。

- ② ア 架空の建設計画を示して資金を欺し取った。
 イ 架空のもとにそびえる架空の高層ビルを仰ぐ。
 ウ 彼の話には大いに違和感があつて興味をひかれる。
 エ この絵から受ける違和感には圧倒されます。
- ③ ア 援助金申請の手続きは実に複雑で結構なものです。
 イ 病状はとも結構で、すぐに手術をする必要がある。
 ウ 参加なさった方にはもれなくすてきなプレゼントを披露します。
 エ 家の新築祝いの席で、婚約を披露した。
- ④ ア 山肌を彩る紅葉の較差に目を奪われる思いだった。
 イ 一人一人の作品に個性的な較差があつてよかつた。
 ウ 双方が激しい非難の応酬をし合つた。
 エ 聴衆はピアノストのみごとな応酬を味わつた。
- ⑤ ア どうぞ快適な空の旅をお楽しみください。
 イ 彼の快適な非難に、相手は青くなつた。
 ウ 今日ほまさに画期的な上天気だね。
 エ 彼ほどの画期的な人物はめつたにいないだろう。
- ⑥ ア いろいろ調べてみたが不祥事で何も分からない。
 イ いや、こんな不祥事に出会えるとは運がいい。
 ウ この計画は何とも破天荒の試みだね。
 エ とんだ破天荒の日の出発となつてしまつた。
- ⑦ ア ここまで登ればもう有頂天だね。
 イ 意外な合格のしらせに有頂天になつた。
 ウ 彼は今ごろ正念場に着いているだろう。
 エ ほんとうに理想的な正念場になりましたね。
- ⑧ ア 今こそ金輪際と言ふべきチャンスだ。
 イ みごとな金輪際を見せていただきました。
 ウ 熱烈な支持者たちも、心機一転、彼を見放した。
 エ 大失敗の後、彼は、心機一転、立ち直つた。

-2-

3 次の①から⑧の語の意味として最も適切なものをア～エの中から選び、符号で答えなさい。

- ① 寒心
 ア 非常に冷酷で人間味がないこと。
 イ 恐れや心配などでぞつとすること。
 ウ 寒さでふるえおののくこと。
 エ 冷淡で人としての魅力に欠けること。
- ② 光陰
 ア 日なたと日陰。 イ 善と悪。 ウ 性格の裏表。 エ 月日。歲月。
- ③ 風聞
 ア 風のたより。 イ 風のうわさ。 ウ 風の強さ。 エ 風習やしきたり。
- ④ 遊説
 ア 各地の遊びについての意見や考え方。
 イ 遊び半分の真剣さに欠ける意見。
 ウ 自分の意見を各地で説きまわること。
 エ ふざけ気味で意見を説きまわること。
- ⑤ 登竜門
 ア 人が誰でも一度は経験する人生の岐路。
 イ 突破されてはいけない大事な関門。
 ウ 立身出世するための出発点。
 エ そこを突破すれば立身出世できる関門。
- ⑥ 温故知新
 ア 昔の物事を研究して、そこから新しい知識や見解を得ること。
 イ 昔の考え方と新しい考え方を比較し、優れている方をとること。
 ウ 昔の物事を研究して、現代にも通じる考え方を探し出すこと。
 エ 昔の考え方と新しい考え方の両方を知り、どちらも大事にすること。
- ⑦ 呉越同舟
 ア 仲の良い者も悪い者もみな同じ場所にいること。
 イ 仲の良い者どうしが集まること。
 ウ 仲の悪い者どうしが同じ場所に居合わせること。
 エ 仲の悪い者が反目し合うこと。

-3-

⑧ 竜頭蛇尾

- ア 最初のすばらしい勢いが最後はまったくなくなること。
イ 最初は勢いが弱いが、だんだんと強くなること。
ウ 出だしから終わりまですばらしい勢いが続くこと。
エ 出だしから終わりまで勢いがなくなること。

4 次の①から⑥について、「」の語を用いて、20字〜30字で文の続きを作りなさい。

① 「焦眉」

地球の温暖化が憂慮されているが、()

② 「雪辱」

今年は完敗したが、()

③ 「老婆心」

彼の幼稚な行動に対して、()

④ 「以心伝心」

家族なのだから、()

⑤ 「四面楚歌」

あまりにも自分勝手な彼は、()

⑥ 「羊頭狗肉」

こんな商売のやり方では、()

5 次の①から⑧の()内を補うのに最も適切なものをア〜エの中から一つ選び、符号で答えなさい。

① もうこの問題にはつきりと()つもりだ。

ア 背を向ける イ けりをつける

ウ 腰を落ち着かせる エ 手ぐすねをひく

② まだ不十分だが、こんなところで()としようか。

ア お茶を濁す イ 一肌脱ぐ

ウ 手の平をかえす エ 九似くわんじの功を一實いじつに虧かく

③ 自分がリーダーという人がそんなにいたら、()でかえつてうまくいかないよ。

ア 手も足も出ない イ 溺れる者はわらをもつかむ

ウ 多多益益たふたふ弁べんず エ 船頭多くして船山ふねやまに登る。

④ この間約束したとことまったく違うことを言うのか。()気だな。

ア 口を割る イ 口を酸っぱくする

ウ 二枚舌を使う エ 舌を巻く

⑤ 君までがそんなことを言ったら、君の部下たちは()じゃないか。

ア 肝に銘じる イ 命あつての物種

ウ 舌を巻く エ 立つ瀬がない

⑥ このあたりは三軒の大型スーパーマーケットが()地域です。

ア しのぎを削る イ 手に余る

ウ 足を引く張る エ 火ぶたを切る

⑦ 当事者の君がそんな()のような態度でいるのはおかしいぞ。

ア 濡れ手で粟 イ 対岸の火事

ウ 岡目八目 エ 蛇の道は蛇

⑧ あの人は()ズバズバ物をいうからなあ。

ア 夫も楯もたまらず イ 二の句が継げず

ウ 仏作つて魂入れず エ 歯に衣着せず

6 次の①から⑧について、傍線部の諺・慣用語が適切に使われているものをアからエの中から一つ選び、符号で答えなさい。

① ア こんな失敗をしかしたんだから、脛に傷を持たざるをええないね。

イ 彼は脛に傷を持つているから、ずいぶん辛そうに歩いている。

ウ 参加者五万人なんて、だいぶさばを読んでいるようだね。

エ 就職したてで月給五十万円欲しいなんて、さばを読んでるんじゃないか。

② ア こんないいかげんなやり方ではなく、きちんと角が立たつようにしてくれ。

イ そんな言い方をしたのは角が立たつよ。

ウ 彼の真剣な話を聞くと、歯が浮く思いだ。

エ とてもわかりやすい説明で歯が浮く思いでした。

8 次の①から⑥について、「」の語句を使って、20～30字で文の続きを作りなさい。

① 「多岐にわたる」

日本最初のノーベル賞受賞者、湯川秀樹博士の（

② 「手を焼く」

まったくあいつの（

③ 「焼け石に水」

これほどの大災害に（

④ 「火に油を注ぐ」

カンカンに怒っている先生の前で（

⑤ 「濡れ衣を着せる」

それじゃあ君は（

⑥ 「鼻持ちならない」

何かというと（

）。

）。

）。

）。

）。

）。

研究代表者 筑波大学 桑原 隆
研究分担者 筑波大学 金子守 塚田泰彦 甲斐雄一郎
研究協力者 筑波大学附属小学校
青木伸生 青山由紀 加賀美久男 白石範孝 二瓶弘行
筑波大学附属中学校
飯田和明 大橋賢一 小尾眞 五味喜久子
筑波大学附属高等学校
秋葉康浩 伊藤雅子 鎌倉芳信 黒澤弘光 塚田勝郎
渡辺雅之

小・中・高一貫制にもとづく教科・教科外のカリキュラム開発研究

—— 国語科 中間研究報告書 ——

平成15～17年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（B）（2）

課題番号 15330184

2005（平成17年）3月

発行者 研究代表者
筑波大学教育学系
桑原 隆

印刷 いなもと印刷
